

令和5年度第2回出雲市子ども・子育て会議

日時：令和5年10月18日（水）14：00～15：30

会場：出雲市役所6階全員協議会室

議事次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告

(1) 市立幼稚園のあり方検討の状況について

資料 1

4 その他

(1) オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンの取組について

資料 2

(2) その他

5 閉 会

(1) 市立幼稚園のあり方検討の状況について

「**出雲市教育政策審議会**」において審議をおこなっている。

- ① 第1回出雲市教育政策審議会（7月24日）
 - ・市長が諮問「今後の市立幼稚園のあり方」について
- ② 第2回出雲市教育政策審議会（8月9日）
 - ・幼稚園・保育所・認定こども園に関するアンケートの実施について
- ③ 第3回出雲市教育政策審議会（8月24日）
 - ※ 他の議題（あり方検討関係の議題は無し）
- ④ 第4回出雲市教育政策審議会（10月3日）
 - ・今後の市立幼稚園のあり方について 本格的な審議をスタート
- 第5回～第7回 継続審議

第4回出雲市教育政策審議会の説明資料から

1. 令和4年度ワーキング会議のまとめ……………資料1-1
 - (1) 市立幼稚園の今後のあり方について【現状と課題】
2. 現状認識と将来展望（園児数等にかかる統計情報と将来推計）……資料1-2
 - (1) 出生数、幼児施設人数・箇所数推移（S23～R4）【全国】【出雲市】
 - (2) 都道府県別幼稚園・認定こども園施設数（令和4年度）
 - ① 都道府県別 施設数
 - ② 都道府県別 小学校第1学年児童数に対する幼稚園等修了者数の割合
 - (3) 子育て世代女性労働力率（全国、島根県、出雲市）、世帯類型別世帯数（出雲市）
 - (4) 園児数推計（令和10年、令和15年）
3. 幼稚園・保育所・認定こども園に関するアンケートの集計結果……資料1-3

市立幼稚園の今後のあり方について
【 現状と課題 】

令和5年（2023）2月

市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議

**令和5年10月時点修正版
（資料に最新値を追加（赤字部分））**

目次

	ページ
1. 目的	・・・ 1
2. 調査・分析による現状及び課題の整理	
(1) これまでの経過（閉園に関する方針と閉園の経過）	・・・ 2
(2) データ分析（出生数・園児数等、施設状況）	・・・ 3
(3) 市計画上の位置づけ	・・・ 7
(4) これまでの取組と状況（預かり保育、無償化の影響）	・・・ 8
(5) 幼児教育について（市立幼稚園の役割）	・・・ 11
(6) 幼稚園教育従事者の思い（委員の意見から）	・・・ 12
(7) 課題の整理	・・・ 13
3. 「市立幼稚園のあり方検討」の今後の進め方	・・・ 14
《資料》	
出雲市立幼稚園の園児数 推移	・・・ 15
市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議 委員	・・・ 16

1. 目的

近年、少子化の進行や家庭の就労状況等の社会情勢の変化により、市立幼稚園の園児数は減少の一途をたどり、一定の集団規模が保てない幼稚園が多数存在している。

平成24年9月には「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」を策定し、これまで、日御碕幼稚園、鵜鷺幼稚園及び乙立幼稚園の3園を閉園し、多伎幼稚園及び出東幼稚園については、保育所を運営する法人への譲渡により認定こども園としたところである。

一方、保護者ニーズへの対応策として、教育時間以外に園児を預かる「預かり保育事業」を展開しているが、園児減少の傾向は変わらない。

また、園舎の多くが古く、幼稚園25園のうち、築30年超が10園（40年超5園、50年超3園）となっており、施設の更新も課題である。

こうした中、今後の市立幼稚園において、「より効果的で均衡のとれた幼児教育」、「より効率的な幼稚園運営」を行うため、市立幼稚園が直面している現状を把握するとともに、様々なデータを分析し、課題を整理することを目的とし、市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議を設置する。

2. 調査・分析による現状及び課題の整理

(1) これまでの経過（閉園に関する方針と閉園の経過）

「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」を、平成24年9月28日に出雲市教育委員会が策定。

現在も、当該方針をもとに、該当する園がある場合は、地元協議を行っている。

① 対象とする幼稚園

- ・学級数1以下の状態が2年続いた幼稚園

② 実施にあたっての基本的な進め方

- ・地元の意向を尊重する。地元と時間をかけ十分に議論・協議を行う。
- ・地元の了解が得られた場合、翌年度からの園児募集を停止し、在園児全てが卒園した段階で閉園を実施する。

令和4年度においては、対象となる園が1園（稗原幼稚園）あるものの、地元合意に至っていない。（令和3年2月締結の「覚書」あり）

これまでの閉園経過は次のとおり。

【平成26年度末閉園】

① 鵜鷺幼稚園、② 日御碕幼稚園

- ・「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」による閉園対象である学級数1以下の状態が2年以上続いていたため、地元協議により了承を得る。
- ・鵜鷺小学校、日御碕小学校の大社小学校への統合に併せて実施。

③ 多伎幼稚園

- ・平成26年度に移管先法人選定委員会開催し、たき保育園を運営する社会福祉法人への移管を決定。
- ・平成26年度末に多伎幼稚園を閉園、たき保育園は廃止。
- ・平成27年度「認定こども園 多伎こども園」開園。

【令和元年度末閉園】

④ 出東幼稚園

- ・平成29年度、今後の園児数の減少が想定されることから地元協議を開始することとする。施設についても老朽化していた。
- ・平成29年度に市から出東幼稚園運営協議会に対し、出東幼稚園のあり方について、3つの方向性を提案。
 - (1) 認定こども園化（認可保育所を運営する社会福祉法人等への事業移管）
 - (2) 10名以上の園児確保による幼稚園の継続
 - (3) 幼稚園の閉園
- ・運営協議会から、社会福祉法人等への事業移管による認定こども園化が最も現実的との回答を受ける。
- ・令和2年度から、近隣の認可保育所である出東保育園が認定こども園化した。

【令和3年度末閉園】

⑤乙立幼稚園

- ・「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」による閉園対象であった。

年 度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
園児数	休園	2名	2名	1名	休園	休園	休園

- ・平成 29 年度に乙立小学校と朝山小学校の統合についての地元合意が得られたことにより地元協議開始。
- ・平成 30 年度に市から乙立自治協会に対し、同小学校の統合にあわせて、乙立幼稚園を閉園する方向で検討したい旨伝達。
- ・乙立自治協会の回答は、当面の間（2～3年間）休園を希望する。
- ・平成 30 年度末 乙立小学校閉校
- ・今後 10 名以上の園児が見込まれないため閉園。

①～⑤の5園の閉園については、園児数の減少、小学校の統合が要因。地元合意を得て、閉園に至った。

近隣に保育所のある所は、認定こども園化が比較的スムーズに進んだ。

(2) データ分析

① 地域別出生数の推移【資料1】 ※ 市民課 住民基本台帳から（単位；人）

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
出雲	1,005	935	906	894	891	981	890
平田	162	141	115	134	108	96	97
佐田	21	11	19	15	9	7	3
多伎	25	12	17	16	8	18	15
湖陵	39	43	34	26	22	19	25
大社	94	88	86	96	101	85	78
斐川	225	244	229	255	242	284	242
合 計	1,571	1,474	1,406	1,436	1,381	1,490	1,350

市全体としての人口は横ばい。子どもについては横ばいから減少傾向。

上表、地域別の出生数を見ると、出雲、斐川は踏みとどまっているものの、周辺部は減少している。中心部への人口の移動が周辺部減少の要因。

幼稚園や保育所等の園児数も、同じような傾向で動いているのが現状。

② 市立幼稚園の施設数・学級数・園児数の推移

本市の市立幼稚園は、25園あり、近年の園児数及び学級数については、以下のとおりである。

また、令和5年度及び令和6年度の数字は、出生数や近年の入園児数の割合等から算出した推計値である。

(参考：「出雲市子ども・子育て支援事業計画 中間見直し」 ※令和4年度会議資料から)

《市立幼稚園の園児数及び学級数の推移及び予測》【資料2】

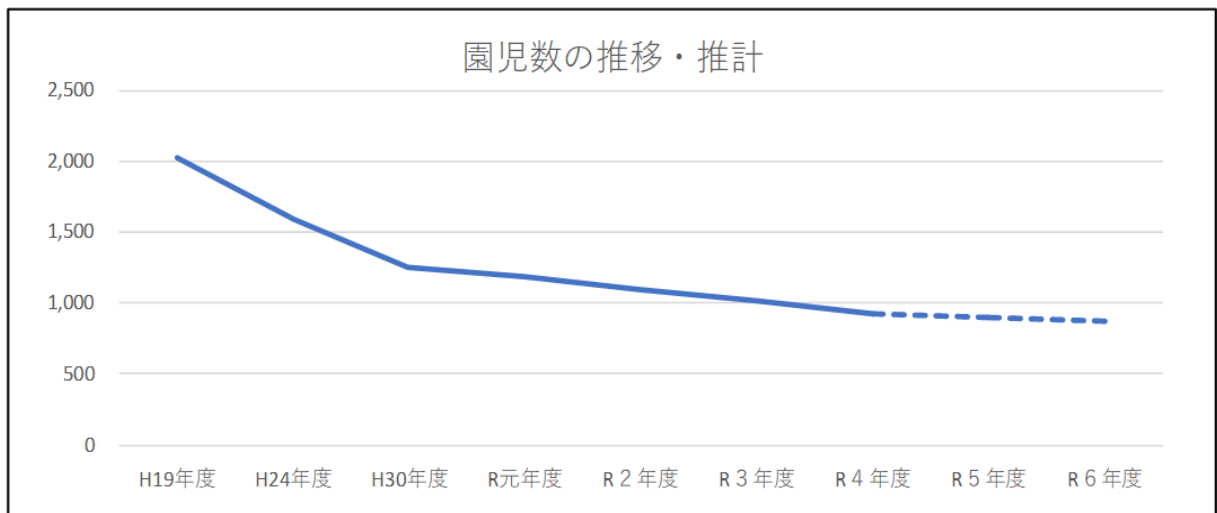
年 度	H19	H24	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
施設数 (園)	30	30	27	27	26	26	25	25	25
学級数 (クラス)	101	86	72	69	70	65	63	62	61
園児数 (人)	2,018	1,589	1,252	1,185	1,099	1,010	924	897	873

※ 園児数は、各年度5月1日(学校基本調査基準日)時点の人数。

※ H19年度は、旧斐川町の施設数4園及び園児数311人を含む。

※ 令和5年度及び令和6年度の数字は推計値。

実績
810



令和4年度の市立幼稚園の園児数924人は、15年前の平成19年度2,018人から半減、10年前の平成24年度1,589人から665人の減となっている。

令和元年度以降の減少は、多少緩やかになってはいるものの、減少傾向は依然として変わらない。

次頁の「③ 保育所等入所児童数の推移」と比較して分析を試みた。

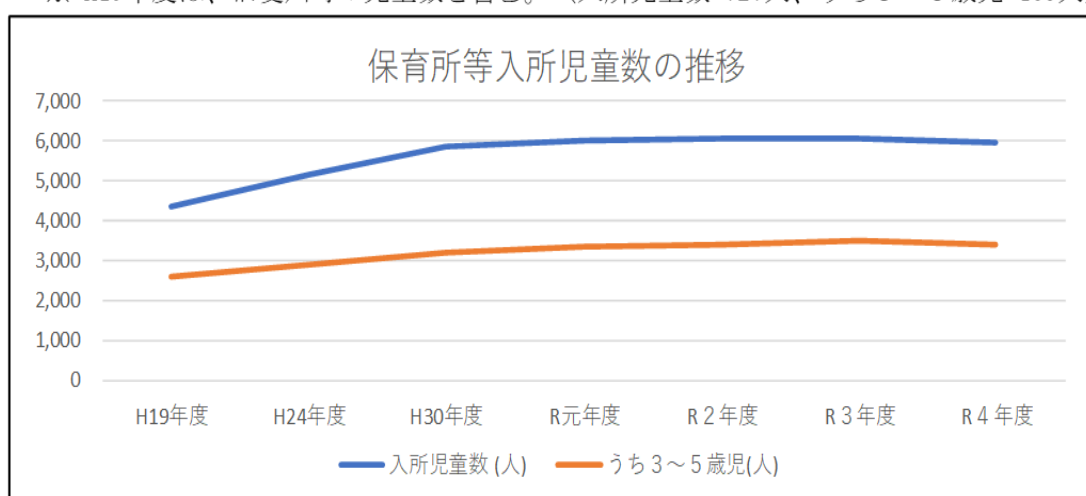
③ 保育所等入所児童数の推移【資料3】

区 分	H19年度	H24年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
入所児童数(人)	4,361	5,147	5,861	6,023	6,074	6,075	5,977	5,990
うち3～5歳児(人)	2,603	2,910	3,202	3,370	3,414	3,483	3,401	3,373

※ 保育所等入所児童数は、認可保育所、認定こども園、小規模保育利用児童数。

※ 入所児童数は、各年度4月1日時点の人数。

※ H19年度は、旧斐川町の児童数を含む。(入所児童数 727人、うち3～5歳児 468人)



令和4年度の保育所等入所児童数 5,977 人（うち3～5歳児 3,401 人）は、15年前の平成19年度 4,361 人（うち、3～5歳児 2,603 人）から約 1.4 倍、10年前の平成24年度 5,147 人（うち、3～5歳児 2,910 人）から約 1.2 倍の増となっている。

前頁の「② 市立幼稚園の施設数・学級数・園児数の推移」と比較すると、各年度とも市立幼稚園園児数の減が、保育所等の3～5歳児の児童数の増になっていることが読み取れる。

核家族化や共働き世帯の増により、保護者が仕事復帰のために早い年齢から保育所に預け、幼稚園就園年齢になっても幼稚園への転園を選択せず、そのまま保育所への継続入所を選択されることに要因があると考えられる。

また、幼児教育・保育の無償化となる以前は、保育所の保育料と比較し、幼稚園を選択される保護者もあったと推測するが、令和元年度に幼児教育・保育の無償化となってからは、保育料の比較で幼稚園を選択する保護者がいなくなったことも要因のひとつと言える。

④ 市立幼稚園の建築年月及び築年数

市立幼稚園25園の築年数は下表のとおりであり、築年数50年超が3園、40年超が5園、30年超が2園あり、多くの園舎において老朽化が課題となっている。

日々の管理により、施設維持に努めてはいるものの、大規模な整備が必要な園もあり、今後の施設整備の方向性を検討するためにも、早急に市立幼稚園の将来方針を定める必要がある。

《市立幼稚園の築年数一覧》【資料4】

令和4年4月現在

No.	園・所名	建築年月	年数(年目)
1	今市幼稚園	昭和45年 2月	52
2	大津幼稚園	平成 6年 3月	28
3	上津幼稚園	平成 9年 1月	25
4	塩冶幼稚園	昭和58年 3月	39
5	古志幼稚園	平成19年 3月	15
6	高松幼稚園	昭和52年12月	45
7	長浜幼稚園	平成18年 3月	16
8	四絡幼稚園	平成14年 3月	20
9	高浜幼稚園	昭和53年12月	44
10	川跡幼稚園	平成21年 7月	13
11	鳶巣幼稚園	平成19年 1月	15
12	朝山幼稚園	平成10年 3月	24
13	稗原幼稚園	平成 4年10月	30
14	神門幼稚園	平成12年 3月	22
15	神西幼稚園	平成16年 3月	18
16	平田幼稚園	昭和46年 3月	51
17	東幼稚園	平成19年 3月	15
18	湖陵幼稚園	平成17年 1月	17
19	大社幼稚園	昭和56年 5月	41
20	荒木幼稚園	昭和54年 2月	43
21	遙堪幼稚園	昭和54年12月	43
22	荘原幼稚園	平成24年 3月	10
23	西野幼稚園	平成15年 3月	19
24	中部幼稚園	昭和47年10月	50
25	中央幼稚園・保育所	平成 5年 3月	29

(3) 市計画上の位置づけ

幼児期において、子どもが質の高い幼児教育を受けることができる環境を整え、小学校へつなげていくことが求められている。

幼児教育をどのように取り組んでいくか、環境をどのように整えていくかは、あり方検討の中でも基底に据えて考えていく必要があることから、2つの大綱、計画について、再確認をした。

① 第2期出雲市教育大綱（令和4年度～令和8年度）

令和4年2月、出雲市が策定。

5年間の学校教育の取組方針や目標を示した大綱。

【基本理念】

家庭・地域・学校で育む出雲の教育

～夢をもち未来を切り拓くしなやかでたくましい人づくり～

【教育目標】

豊かな心と健やかな体をもち、自信をもって生きぬく人を育てます。

ふるさとへの誇りと愛着をもち、地域の発展を担う人を育てます。

確かな学力と豊かな創造性をもち、広い視野で世界にはばたく人を育てます。

多様性を認める寛容さをもち、持続可能な社会づくりに寄与する人を育てます。

② 第4期出雲市教育振興計画（令和4年度～令和8年度）

令和4年9月、出雲市教育委員会が策定。

出雲市総合振興計画との整合性を図り、教育部門の構想・計画について、第2期出雲市教育大綱を踏まえ、総合的・具体的に表した計画。

以下、幼児教育関連の主な項目を抜粋する。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 教育を支える環境の充実<ol style="list-style-type: none">(2) 適正な教育環境の構築<ol style="list-style-type: none">② 市立幼稚園の適正規模化と認定こども園化の検討2. 「生きる力」の育成<ol style="list-style-type: none">(2) 幼児期の教育の充実<ol style="list-style-type: none">① 教職員の指導力向上② 幼稚園における子育て支援の推進③ 小学校教育を見据えた幼児期の教育の充実3. 困難を抱える子どもの支援<ol style="list-style-type: none">(1) 特別支援教育の充実<ol style="list-style-type: none">⑥ 幼稚園等における特別支援教育の充実⑦ 早期からの幼児への発達支援 |
|---|

当該計画の中では、幼児期の教育の充実を図るため、

- ・教職員の指導力の向上
- ・幼稚園における子育て支援の推進、保護者支援の機能としての預かり保育事業
- ・保幼小の連携
- ・年中児発達相談の実施
- ・基本的な生活習慣の確立への取組
- ・全幼稚園におけるインクルーシブ教育の推進、拠点園や推進園の拡充

などが、記載されている。

現在は、市立幼稚園が、主としてその機能を担い、出雲市の幼児教育をけん引していき、そこに、市立幼稚園の存在意義があると考える。

(4) これまでの取組と状況

① 市立幼稚園の預かり保育事業の取組と利用状況

市立幼稚園において、在園児を対象に、保護者の就労や用事など子育て家庭のニーズに対応して、教育時間（9時00分～14時30分）外に預かり保育を実施している。（利用料あり。「保育の必要性」の認定を受けた場合は減免あり。）

・実施園；全園（25園）で実施

・預かり時間

➢ **長時間預かり**；7時30分～8時30分、14時30分～18時30分

今市、上津、高松、川跡、鳶巣、朝山、稗原、神門、中央、平田、東、湖陵、大社、遙堪、荘原、西野、中部、大津、塩冶、四絡、荒木

➢ **短時間預かり**；14時30分～16時30分

古志、長浜、高浜、神西

※ 短時間預かりの4園について、令和5年度から長時間預かりへ移行する

≪ 預かり保育の利用率（令和4年6月の利用実績で計算） ≫ 【資料5】

長時間預かり	園名	園児数	利用者	利用率	短時間預かり	園名	園児数	利用者	利用率	
	今市	53	27	50.9%		古志	20	9	45.0%	
大津	56	20	35.7%	長浜	11	8	72.7%			
上津	9	9	100.0%	高浜	18	10	55.6%			
塩冶	81	33	40.7%	神西	18	16	88.9%			
高松	52	34	65.4%	小計	67	43	64.2%			
四絡	82	37	45.1%	合計				926	539	58.2%
川跡	54	33	61.1%							
鳶巣	16	10	62.5%							
朝山	12	11	91.7%							
稗原	8	6	75.0%							
神門	50	28	56.0%							
平田	40	17	42.5%							
東	21	13	61.9%							
湖陵	30	17	56.7%							
大社	41	21	51.2%							
荒木	37	26	70.3%							
遙堪	14	7	50.0%							
荘原	49	29	59.2%							
西野	49	31	63.3%							
中部	37	28	75.7%							
中央	68	59	86.8%							
小計	859	496	57.7%							

※園児数および利用者は、広域受託を含む。

≪ 「保育の必要性」の認定状況（令和4年7月1日時点） ≫ 【資料6】

長時間預かり	園名	園児数	認定数	認定率	短時間預かり	園名	園児数	認定数	認定率	
	今市	54	23	42.6%		古志	20	8	40.0%	
大津	56	19	33.9%	長浜	11	7	63.6%			
上津	9	5	55.6%	高浜	18	10	55.6%			
塩冶	80	33	41.3%	神西	18	13	72.2%			
高松	51	37	72.5%	小計	67	38	56.7%			
四絡	81	29	35.8%	合計				927	512	55.2%
川跡	54	30	55.6%							
鳶巣	16	9	56.3%							
朝山	12	11	91.7%							
稗原	8	6	75.0%							
神門	50	23	46.0%							
平田	41	19	46.3%							
東	21	10	47.6%							
湖陵	30	19	63.3%							
大社	42	23	54.8%							
荒木	37	19	51.4%							
遙堪	14	11	78.6%							
荘原	49	31	63.3%							
西野	50	34	68.0%							
中部	37	26	70.3%							
中央	68	57	83.8%							
小計	860	474	55.1%							

※園児数および利用者は、広域受託を含む。

前頁の資料、市立幼稚園における「預かり保育の利用率」をみると、全体で58.2%が利用している。また、「保育の必要性の認定状況」をみると、全体の55.2%が就労等の理由で認定を受けている。市立幼稚園に通う園児の半数以上が、何等かの理由で、保育所ではなく幼稚園を選択して通っていることになる。

その理由について調査を行ったわけではないが、保護者が希望する保育所に空きがなく、やむを得ず幼稚園を選択し預かり保育を利用することで就労等が可能となる家庭の受け皿になっていることが予想できる。

《市立幼稚園の預かり保育の制度拡充の経過と効果》

出雲市立幼稚園の預かり保育(短時間・長時間)開始年度と園児数の推移【次ページ】

長時間預かり拡充の効果（令和元年度以降の8園で比較）のまとめ

- ① 前年比で園児数増 …5園（大津、神門、大社、荒木、遙堪）
- ② 前年比で園児数減 …3園（塩冶、高松、四絡）
- ③ 前年比で預かり利用増 …6園（大津、高松、四絡、大社、荒木、遙堪）
- ④ 前年比で預かり利用減 …1園（神門）
- ⑤ 前年比で横ばい …1園（塩冶）

全体の園児数が減少傾向にある中、効果が強く表れているとは言えないが、市の中心部に比べ、周辺部では一定の効果をもたらしている。保護者にとって助けになっていると言える。

出雲市立幼稚園の預かり保育(短時間・長時間)開始年度と園児数の推移【資料7】

【単位：人】

園名		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	長時間 預かり
今市	園児数	72	53	50	71	82	75	74	67	55	53	41	H27～
	預かり利用			18	31	37	35	38	23	25	26	19	
大津	園児数	81	80	74	60	70	72	70	62	54	56	47	R4～
	預かり利用					8	16	28	11	13	25	11	
上津	園児数	12	12	7	10	9	9	5	10	10	8	5	H24～
	預かり利用			7	9	7	7	5	8	10	9	5	
塩冶	園児数	95	104	111	113	99	111	114	107	82	81	66	R4～
	預かり利用				28	31	35	30	13	30	30	27	
古志	園児数	23	22	23	20	17	13	17	21	20	20	19	R5～
	預かり利用					4	6	12	4	14	7	7	
高松	園児数	70	67	53	61	54	57	61	61	59	52	41	R3～
	預かり利用					21	28	32	15	38	33	18	
長浜	園児数	28	32	33	34	28	27	26	21	14	11	7	R5～
	預かり利用						7	6	5	5	9	5	
四絡	園児数	125	119	116	117	110	109	101	102	92	83	66	R4～
	預かり利用				51	43	62	45	20	33	35	22	
高浜	園児数	45	53	49	44	41	32	33	28	24	18	14	R5～
	預かり利用						12	11	5	12	10	8	
川跡	園児数	88	84	59	82	79	81	60	51	49	54	54	H28～
	預かり利用				17	32	35	30	24	31	31	31	
鳶巣	園児数	32	30	42	38	38	27	21	14	15	15	13	H23～
	預かり利用			30	24	25	24	17	6	10	10	9	
朝山	園児数	27	15	13	14	14	19	19	15	15	11	19	H15～
	預かり利用			11	12	11	17	14	10	14	11	19	
乙立	園児数 預かり利用	2 2	2 2	0 0	2 2	2 2	1 1	休園 休園	休園 休園	休園 休園	閉園 閉園		
稗原	園児数	23	20	19	22	15	7	7	8	8	8	6	H19～
	預かり利用			15	16	11	4	4	7	7	6	4	
神門	園児数	74	72	50	44	34	40	45	56	48	50	40	R1～
	預かり利用					18	24	22	23	27	28	23	
神西	園児数	38	33	23	23	24	29	20	22	22	18	19	R5～
	預かり利用					9	17	11	10	15	13	15	
中央	園児数	83	90	90	85	76	70	79	74	70	69	64	H16～
	預かり利用			71	71	58	55	60	56	59	57	52	
平田	園児数	98	83	84	70	67	62	54	47	39	40	33	H25～
	預かり利用			37	24	16	19	21	12	12	16	15	
東	園児数	75	72	83	62	53	52	57	45	37	21	20	H19～
	預かり利用			27	25	21	31	37	30	22	12	12	
多伎	園児数 預かり利用	36 36	20 20	民営化 民営化									
湖陵	園児数	31	38	45	50	52	44	37	36	36	30	23	H17～
	預かり利用			18	18	23	15	16	15	17	18	13	
大社	園児数	37	43	38	50	49	46	39	42	48	41	36	R3～
	預かり利用			10	10	18	29	26	12	35	21	18	
荒木	園児数	61	63	52	51	48	48	39	39	35	37	34	R4～
	預かり利用						21	18	6	16	23	19	
遙堪	園児数	22	24	24	18	17	15	15	11	12	13	11	R3～
	預かり利用						9	7	3	5	7	9	
日御碕	園児数 預かり利用	1 1	3 3	閉園 閉園									
鶴鷺	園児数 預かり利用	0 0	0 0	閉園 閉園									
莊原	園児数	63	60	63	67	70	68	65	49	57	49	48	H24～
	預かり利用			33	38	33	31	35	21	27	27	23	
西野	園児数	89	83	91	87	73	69	70	64	67	49	44	H24～
	預かり利用			32	26	24	30	27	17	33	30	33	
中部	園児数	59	63	59	53	43	56	46	47	42	37	40	H24～
	預かり利用			26	28	27	30	26	22	24	28	30	
出東	園児数	21	18	18	17	16	13	11	11	11	11	11	
	預かり利用			11	11	11	8	8	民営化	民営化			
合計	園児数 預かり利用	1,511 346	1,458 346	1,369 346	1,365 439	1,280 488	1,252 607	1,185 586	1,099 378	1,010 534	924 522	810 447	

※ 上段；園児数、下段；うち預かり保育利用者数

園児数は、各年度5月1日（学校基本調査時）園児数

預かり利用者数は、平成26年度以前はデータ無し。

平成27年度は9月利用者数。平成28年度以降は5月利用者数

網掛けは、預かり保育開始年度

② 幼児教育・保育の無償化の影響

前述、市立幼稚園の園児数の推移において、「幼児教育・保育の無償化となる以前は、保育所の保育料と比較し、幼稚園を選択される保護者もあったと推測するが、令和元年度に幼児教育・保育の無償化となってからは、保育料の比較で幼稚園を選択する保護者がいなくなったことも要因のひとつと言える。」と分析した。

実際、女性の就業意欲の向上により、出産後も早くから保育所入所の希望が高まっている。この流れは止まらず、幼稚園児を募集しても、就園年齢前の在宅児童が少なくなってきたのが現状である。就園前年齢で一度保育所に入所した保護者が、幼稚園就園年齢になり転園するという選択をされることは少ない。中には小学校へ一緒に入学するともだちづくりやスムーズな小学校への接続を理由に地元の幼稚園を選択される保護者もいるが、少数である。幼児教育・保育の無償化の影響は意外と大きいと考える。

(5) 幼児教育について 市立幼稚園の役割

出雲市教育大綱の重点目標のひとつ「確かな学力」に、「幼児期は、学びに向かう力を育む重要な時期であり、就学前教育の充実に努めます」とある。

出雲市の幼児教育はレベルが高い。幼稚園であっても、保育所であっても、「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」を育て、小学校につなげていくことが大切である。

年々、幼稚園と保育所が一緒に研修をする場が増えてきているが、市をあげて実施しているのは県内出雲市だけである。出雲市の幼児教育をリードするのは公立である幼稚園の重要な役割であると考ええる。

ワーキング会議では、公立の幼稚園だからこそ「できる」「すべき」役割、出雲市の幼児教育のリーダーシップをとっていく内容として、次の意見が挙げられた。

【① 幼児教育の充実に向けた研究・実践】

- 幼稚園教育要領に基づく幼児教育の深化、充実、発信。教職員の指導力向上
- 出雲市及び出雲市教育委員会が策定している「第2期出雲市教育大綱」「第4期出雲市教育振興計画」に基づいた、どの園でも等しく同じ幼児教育を展開
 - ・ 出雲市幼稚園教育研究会の活動
 - ・ 園内研修の実施。市の幼児教育指導員の派遣（指導・助言）を受けての実施
 - ・ 研究・実践の成果を保育所と共有。保幼合同研修の実施

【② 特別な支援を必要とする幼児の受入れ】

- 特別支援拠点園（今市幼）やインクルーシブ教育推進園（中央幼）での受入れ
 - ・ 特別支援拠点園、インクルーシブ教育推進園及び通級指導教室の拡充
 - ・ 医療的ケア児の受入れ、関係機関等との連携
 - ・ 外国にルーツのある幼児の受入れ

【③ 保幼小の連携】

- 幼児教育から小学校教育への円滑な接続
 - ・ 幼稚園による保育所や小学校との連携強化
 - ・ 連携事業（保幼小合同研修、保幼小交流の日等）の実施

【④ 子育て家庭への支援】

- 広がる保護者のニーズに応える子育て支援
 - ・ 預かり保育事業の実施（長時間預かり、長期休業中の預かり保育）
- 在園児保護者の子育て相談や未就園児のいる家庭に対する子育て支援など、子育て支援センター的な機能
 - ・ 未就園児教室の実施等による保護者の家庭教育支援
 - ・ 子育て相談への対応

【⑤ 地域と連携した子育て支援】

- 地域の人々との交流や連携した園活動
 - ・ 幼稚園自主企画特別事業の実施。地域講師の招へい
 - ・ 幼稚園運営協議会
 - ・ 地域行事や地域コミュニティセンターの行事への積極的な参加等による、地域の伝統・文化の継承

（6）幼稚園教育従事者の思い（委員の意見から）

① 出雲市の幼児教育推進のリーダーシップを担う市立幼稚園

- ・ 充実した研修を行っている。全園が同じ方向性を持った教育をしている市立幼稚園が、出雲市の幼児教育推進のリーダーシップを担う役割がある。
- ・ 保育所等との合同研修を実施。市全体としての幼児教育の指導力向上を図っている。

② 集団教育を活かした、質の高い幼児教育を提供する市立幼稚園

- ・ 家庭よりも大きな集団の中での幼児の自発的な活動である「遊び」を通して様々な体験をし、様々な考えに触れ、互いを認め合い、協力し合い、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」、「学びに向かう力や人間性」といった資質や能力を育成する重要な場として、質の高い幼児教育を提供している。
- ・ 幼児の発達や学びの連続性を確保しながら、小学校生活への憧れや見通しを持つことのできる遊びや活動を取り入れるなど、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を意識した教育課程のもとに幼児教育を実践している。

③ インクルーシブ教育を推進する市立幼稚園

- ・支援の必要な幼児を受入れるため、特別支援拠点園やインクルーシブ教育推進園を核として、全園での受け入れ体制がある。
- ・医療的ケア児の受け入れを推進する。
- ・外国にルーツのある幼児の受け入れ体制がある。

④ 保護者ニーズに応じた教育・保育を展開する市立幼稚園

- ・保護者の幼児教育への関心が高く、幼稚園と保護者のつながりが深い。
- ・一時預かり事業を全園で展開し、保護者ニーズに対応している。一方、利用保護者からは、長期休業中の昼食提供（現在は保護者による弁当対応）を強く望まれている。
- ・未就園児教育の拡充として、満3歳児学級の実現や認定こども園化の声がある。

⑤ 園児確保への取組

- ・幼稚園利用者等（保護者）の評価（学校評価等）は高いため、幼稚園の取組をもっとPRしたい。
- ・幼稚園就園年齢になっても、保育所から幼稚園への転園を選択する保護者は少数であり、認定こども園の検討も必要。
- ・発達段階に応じた、質の高い集団教育・保育を提供するための園児数でクラス編制ができることが望ましい。

(7) 課題の整理

これまでの調査・分析、現状把握、ワーキング会議委員の意見等から、市立幼稚園のあり方の検討を進めるうえでの課題の整理を行った。

① 社会情勢の変化に伴う市立幼稚園の役割・意義の希薄化への対応

核家族化や共働き世帯が増加する社会における、保護者ニーズの変化に対応した幼児教育・保育の取組の展開・充実が必要である。

保護者からのニーズが高い一時預かり事業の実施継続、支援の必要な幼児や医療的ケア児、外国にルーツのある幼児等の積極的な受け入れなど、市の幼児教育をリードする取組を市立幼稚園が率先して担う必要がある。

また、これらの取組を広く知ってもらうための、効果的な、幼稚園の魅力発信・PR方法を検討する必要がある。

② 質の高い幼児教育の提供の維持

園児の減少が進む中であっても、発達段階に応じた、質の高い集団教育・保育を維持するための園児数でクラス編制ができることが望ましい。

③ 集団教育・保育のあり方の検討、見直し

①②を踏まえた集団教育・保育のあり方について検討し、将来的に市立幼稚園の役割が果たせるよう、認定こども園化を含め、教育・保育の提供体制等を見直す必要がある。

(8)「市立幼稚園のあり方検討」の今後の進め方

令和4年度は、子ども未来部長を座長とし、幼稚園長等で構成する「市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議」を立ち上げ、現状把握やデータの分析により、課題の整理を行った。

令和5年度には、ワーキング会議で整理した課題等をもとに、幅広い視点により検討をするため、有識者や地域選出者等で構成され、教育政策の根幹を審議する「出雲市教育政策審議会」において、「今後の市立幼稚園のあり方」について審議いただき、具体的な計画化を進めたい。

なお、検討を進めるにあたっては、保育所運営を担う組織関係者、子育て世代の保護者や地域などからの意見を伺う必要があると考える。

《 資料 》

出雲市立幼稚園の園児数 推移

幼稚園名/年度			H元	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
1	今市	園児数	85	84	79	82	75	68	77	94	92	72	53	50	71	82	75	74	67	55	53	41
		学級数	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
2	大津	園児数	170	120	108	86	94	78	74	66	80	81	80	74	60	70	72	70	62	54	56	47
		学級数	6	5	5	4	5	4	4	3	4	3	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3
3	上津	園児数	28	25	24	16	15	10	6	8	12	12	12	7	10	9	9	5	10	10	8	5
		学級数	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	1	2	1	1	1	2	2	1	1
4	塩冶	園児数	234	158	156	167	146	127	108	106	102	95	104	111	113	99	111	114	107	82	81	66
		学級数	7	6	6	6	6	6	5	5	5	4	5	5	5	4	6	6	5	3	3	3
5	古志	園児数	56	21	26	32	31	29	25	22	19	23	22	23	20	17	13	17	21	20	20	19
		学級数	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
6	高松	園児数	111	114	110	104	105	97	97	82	82	70	67	53	61	54	57	61	61	59	52	41
		学級数	4	5	5	5	5	5	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
7	長浜	園児数	26	26	36	32	32	31	26	26	19	28	32	33	34	28	27	26	21	14	11	7
		学級数	1	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	1
8	四絡	園児数	174	157	176	159	160	153	150	136	135	125	119	116	117	110	109	101	102	92	83	66
		学級数	6	6	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	4	6	5	3	3
9	高浜	園児数	54	46	54	64	57	46	36	31	34	45	53	49	44	41	32	33	28	24	18	14
		学級数	2	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	2	3	2	2	2	2	2
10	川跡	園児数	103	103	105	95	88	89	106	95	101	88	84	59	82	79	81	60	51	49	54	54
		学級数	3	5	5	5	4	5	5	5	5	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3
11	鳶巣	園児数	50	18	23	23	27	29	29	27	26	32	30	42	38	38	27	21	14	15	15	13
		学級数	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2
12	朝山	園児数	43	46	32	27	30	36	34	29	32	27	15	13	14	14	19	19	15	15	11	19
		学級数	2	3	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
13	乙立	園児数	11	14	15	16	12	11	8	5	4	2	2	0	2	2	1	0	0	0	閉園	
		学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0		
14	稗原	園児数	59	22	19	19	23	22	21	27	28	23	20	19	22	15	7	7	8	8	8	6
		学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
15	神門	園児数	112	98	97	96	75	70	66	68	74	74	72	50	44	34	40	45	56	48	50	40
		学級数	4	5	4	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3
16	神西	園児数	69	56	53	48	42	39	40	36	35	38	33	23	23	24	29	20	22	22	18	19
		学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
17	中央	園児数		73	84	82	78	84	88	85	84	83	90	90	85	76	70	79	74	70	69	64
		学級数		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
18	平田	園児数	159	194	190	188	152	128	111	101	99	98	83	84	70	67	62	54	47	39	40	33
		学級数	5	7	7	8	6	6	5	5	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
19	東	園児数	110	97	91	97	89	99	85	81	65	75	72	83	62	53	52	57	45	37	21	20
		学級数	4	4	4	5	4	5	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
20	多伎	園児数	101	43	48	40	45	45	48	49	40	36	20	民営化								
		学級数	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1									
21	湖陵	園児数	111	65	69	57	55	49	51	54	43	31	38	45	50	52	44	37	36	36	30	23
		学級数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	3	2	3	3
22	大社	園児数	104	65	56	55	51	41	41	40	46	37	43	38	50	49	46	39	42	48	41	36
		学級数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
23	荒木	園児数	101	75	63	78	79	74	74	66	60	61	63	52	51	48	48	39	39	35	37	34
		学級数	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	3	3
24	遙堪	園児数	60	42	38	37	29	22	21	20	24	22	24	24	18	17	15	15	11	12	13	11
		学級数	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
25	日御碕	園児数	22	9	5	4	4	3	3	3	2	1	3	閉園								
		学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1								
26	鶴鷺	園児数	6	2	3	3	2	1	0	0	0	0	0	閉園								
		学級数	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0									
27	莊原	園児数	65	81	87	83	76	65	61	66	76	63	60	63	67	70	68	65	49	57	49	48
		学級数	2	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
28	西野	園児数	72	116	131	128	116	112	101	100	88	89	83	91	87	73	69	70	64	67	49	44
		学級数	3	5	6	6	5	5	5	5	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3
29	中部	園児数	38	56	80	68	61	61	57	56	63	59	63	59	53	43	56	46	47	42	37	40
		学級数	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
30	出東	園児数	41	32	31	32	25	27	20	12	24	21	18	18	17	16	13	11	民営化			
		学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				
合計	園児数前年比	園児数	2,375	2,058	2,089	2,018	1,874	1,746	1,664	1,591	1,589	1,511	1,458	1,369	1,365	1,280	1,252	1,185	1,099	1,010	924	810
		学級数	91	98	100	101	93	95	89	85	85	83	81	76	77	75	72	69	70	65	63	62
					△ 31	△ 71	△ 144	△ 128	△ 82	△ 73	△ 2	△ 78	△ 53	△ 89	△ 4	△ 85	△ 28	△ 67	△ 86	△ 89	△ 86	△ 114

市立幼稚園のあり方検討ワーキング会議 委員

令和4年(2022)7月26日 第1回会議

No.	区分	氏名	所属等	備考
1	座長	小村 信弘	出雲市 子ども未来部長	
2	委員	藤江 素子	出雲市立塩冶幼稚園長	園長会長
3	委員	今岡 篤子	出雲市立今市幼稚園長	
4	委員	原 久美子	出雲市立湖陵幼稚園長	
5	委員	高橋 均	出雲市立中部幼稚園長	
6	委員	常松 博雄	出雲市教育委員会 教育政策課長	
7	委員	岸 直子	保育幼稚園課 幼児教育指導員	
8	委員	金築 健志	出雲市 子ども未来部次長 兼 保育幼稚園課長	
	事務局	南場 正直	保育幼稚園課 課長補佐	
		高松 容子	保育幼稚園課 運営係長	

《ワーキング会議》

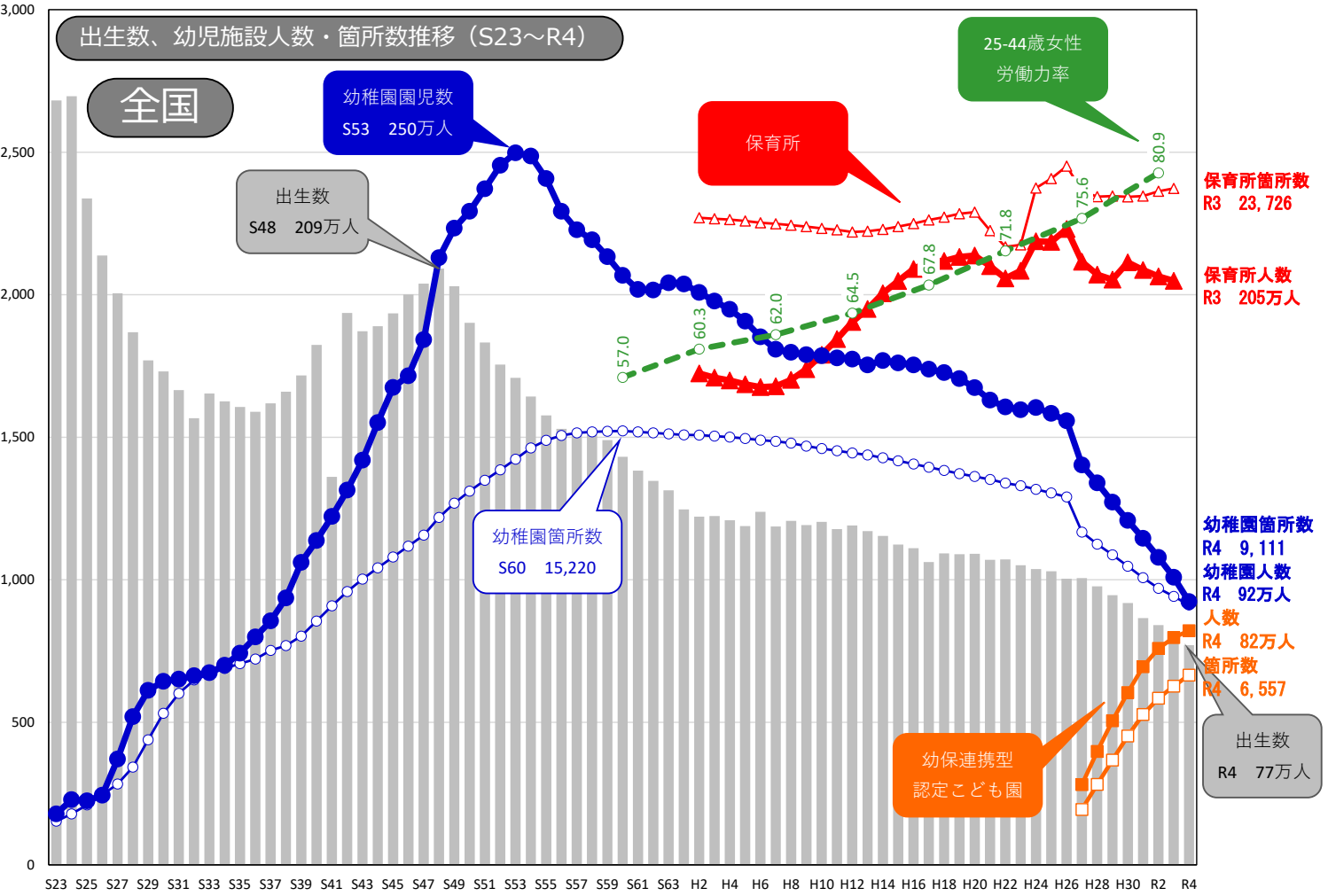
- ① 第1回会議 7月26日(火) 市民応接室
- ② 第2回会議 8月25日(木) 601会議室
- ③ 第3回会議 10月20日(木) 403会議室
- ④ 第4回会議 2月 6日(月) 市民応接室

現状認識と将来展望

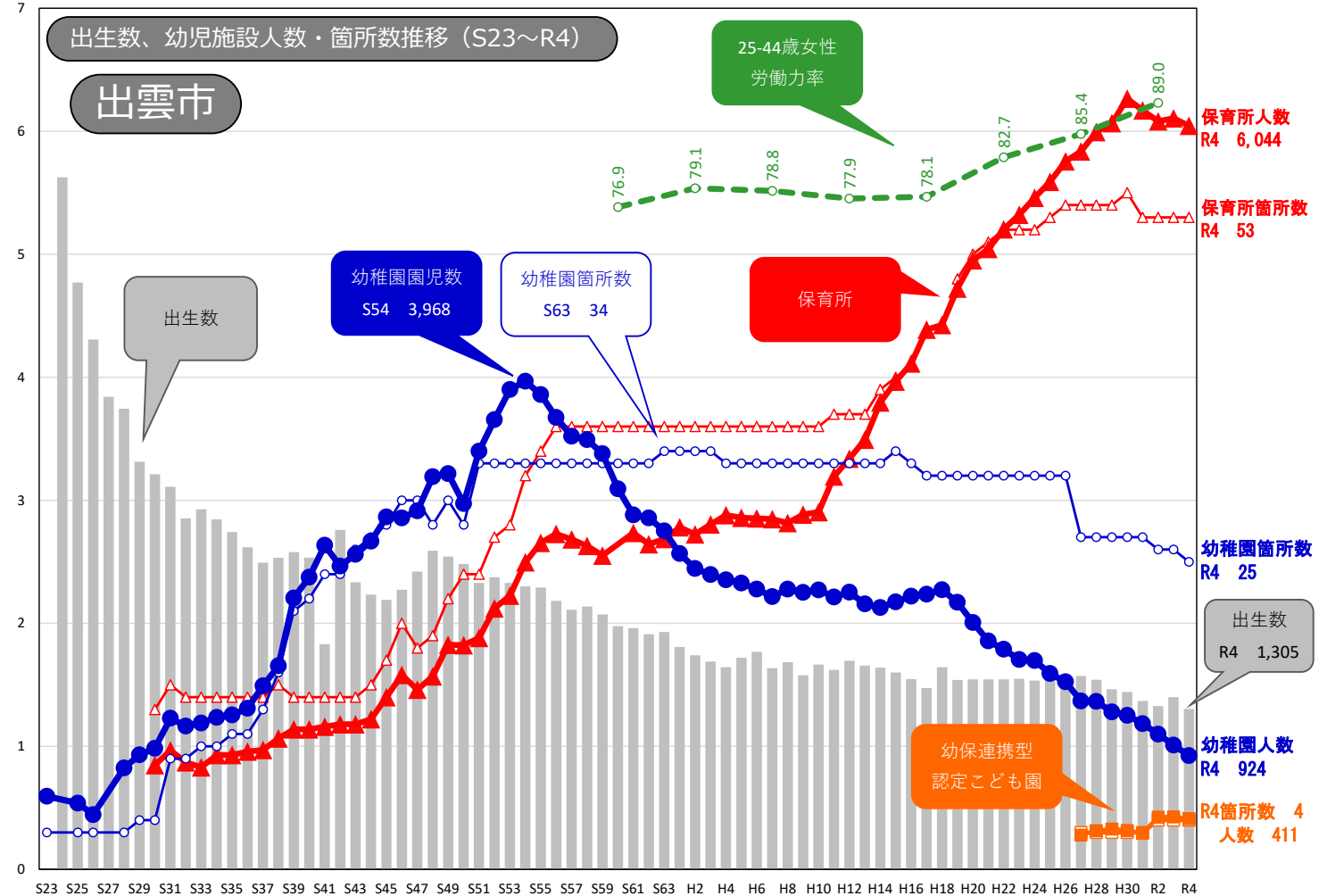
(園児数等にかかる統計情報と将来推計)

- (1)出生数、幼児施設人数・箇所数推移 (S23～R4) 【全国】【出雲市】 …… 2
- (2)都道府県別幼稚園・認定こども園施設数 (令和 4 年度) …… 5
 - ①都道府県別 施設数
 - ②都道府県別 小学校第 1 学年児童数に対する幼稚園等修了者数の割合
- (3)子育て世代女性労働力率 (全国、島根県、出雲市)、
世帯類型別世帯数 (出雲市) …… 7
- (4)市立幼稚園園児数推計 (令和 10 年度、令和 15 年度) …… 8

(1000人、10か所)



(1000人、10か所)



【全国】

- ①出生数 第2次ベビーブーム時の209万人（昭和48年）をピークに減少が続き、令和4年は77万人と過去最低を更新し続けている。
- ②幼稚園児数 第2次ベビーブーム後をピークに、出生数の減少と同じ傾斜で園児数が減少しており、平成27年以降は、認定こども園の増加と反比例する形で急減している。
- ③保育所人数 女性の社会進出とともに保育所人数が増えているが、少子化により増加の程度は鈍化している。

【出雲市】

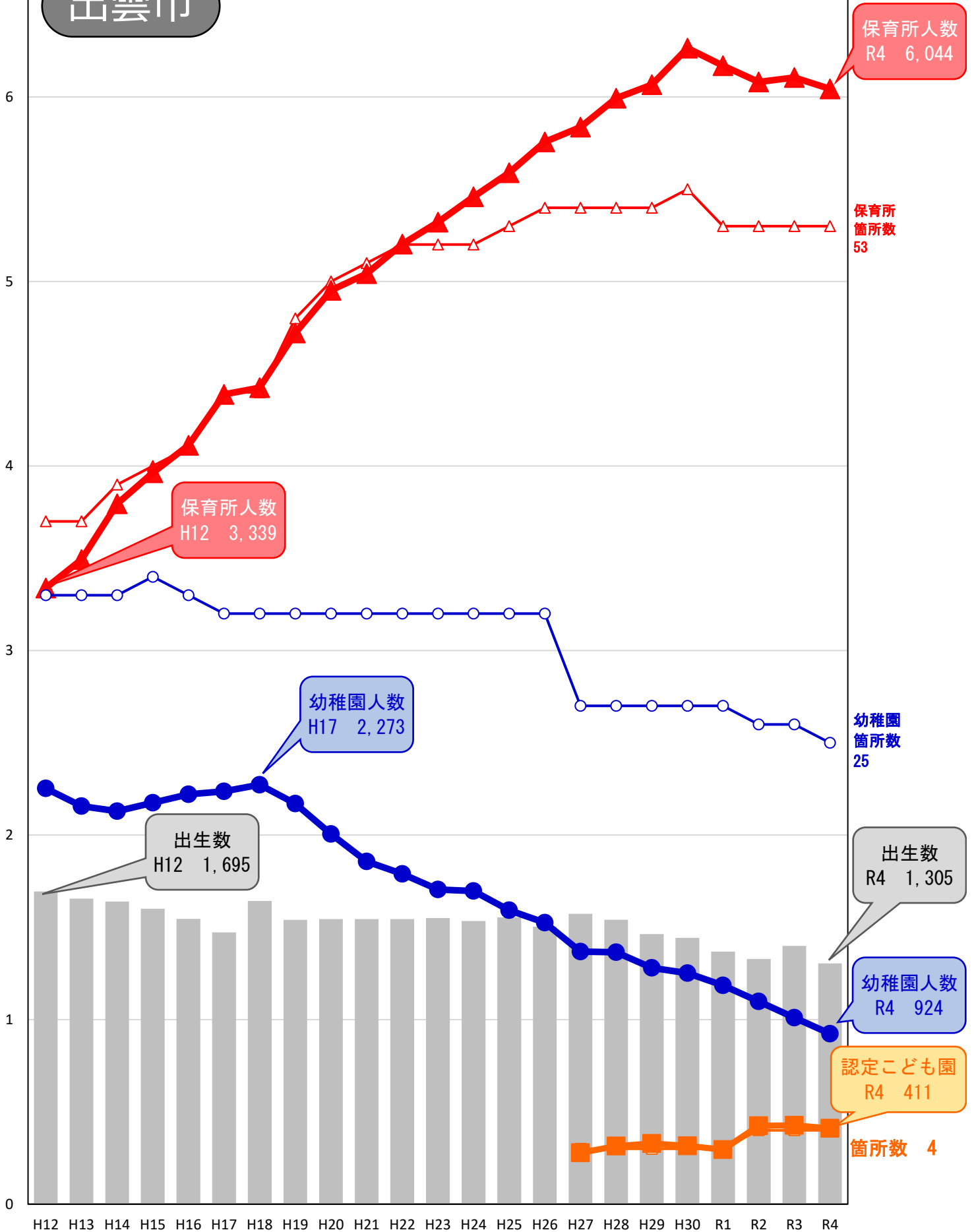
- ①出生数 第2次ベビーブームがなく、減少が続いたが、平成年代はおおむね横ばいの出生数であった。平成29年以降、減少しているが、日本人以外を加えるとおおむね横ばい（微減）となっている。（グラフは「人口動態調査（戸籍の統計）」であり日本人のみの集計となっている。）
- ②幼稚園児数 全国の傾向より遅れて昭和54年に3,968人のピークとなっている。女性の社会進出と保育所志向の高まりとともにその後ほぼ一貫して減少しているが、平成20年頃からは減少が加速化している。
- ③保育所人数 元々女性の労働力率が高く、保育需要が高かったと思われるが、特に平成12年の「新エンゼルプラン（国）」に対応した施設整備の増加を転機に、保育所の定員拡大が続き人数が大きく増えている。しかし令和元年度以降は減少に転じている。ただし、認定こども園を含めるとほぼ横ばいである。

(1000人、10か所)

7

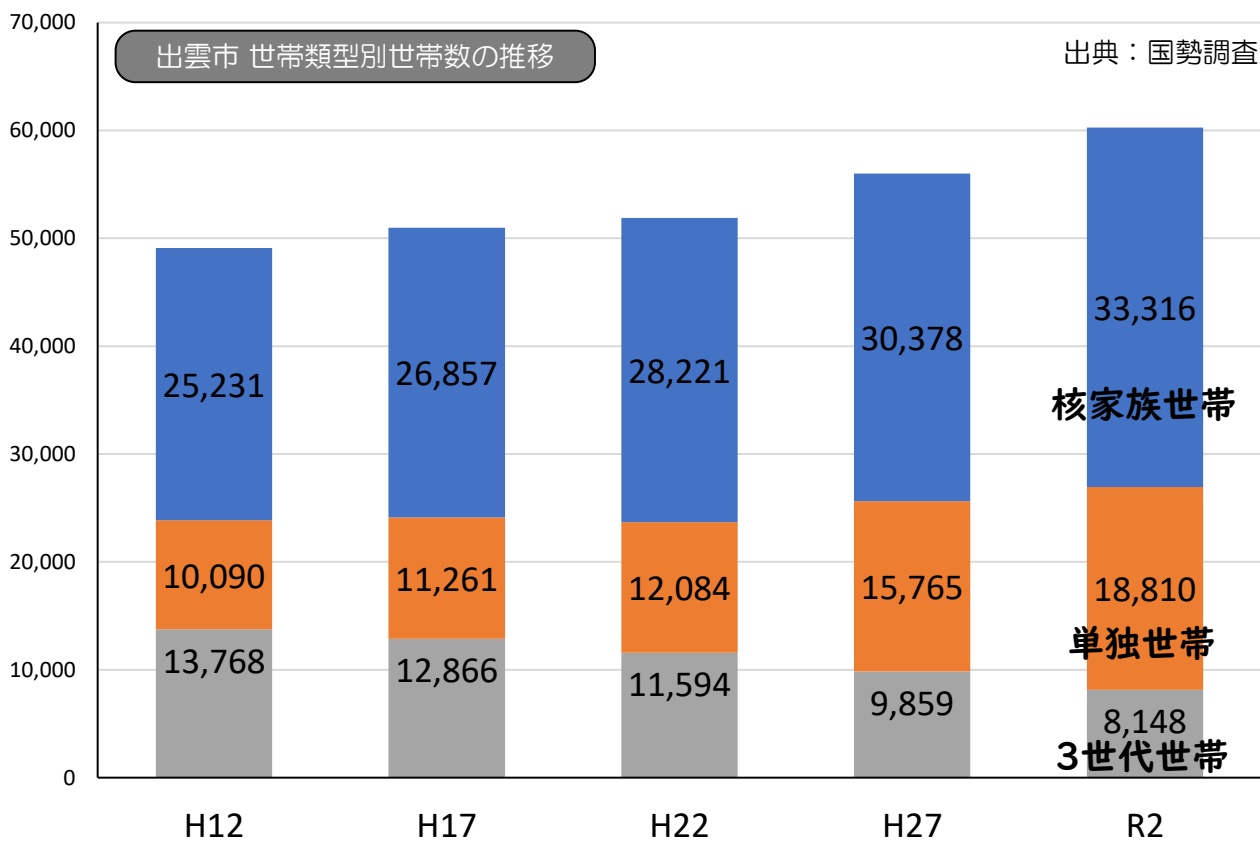
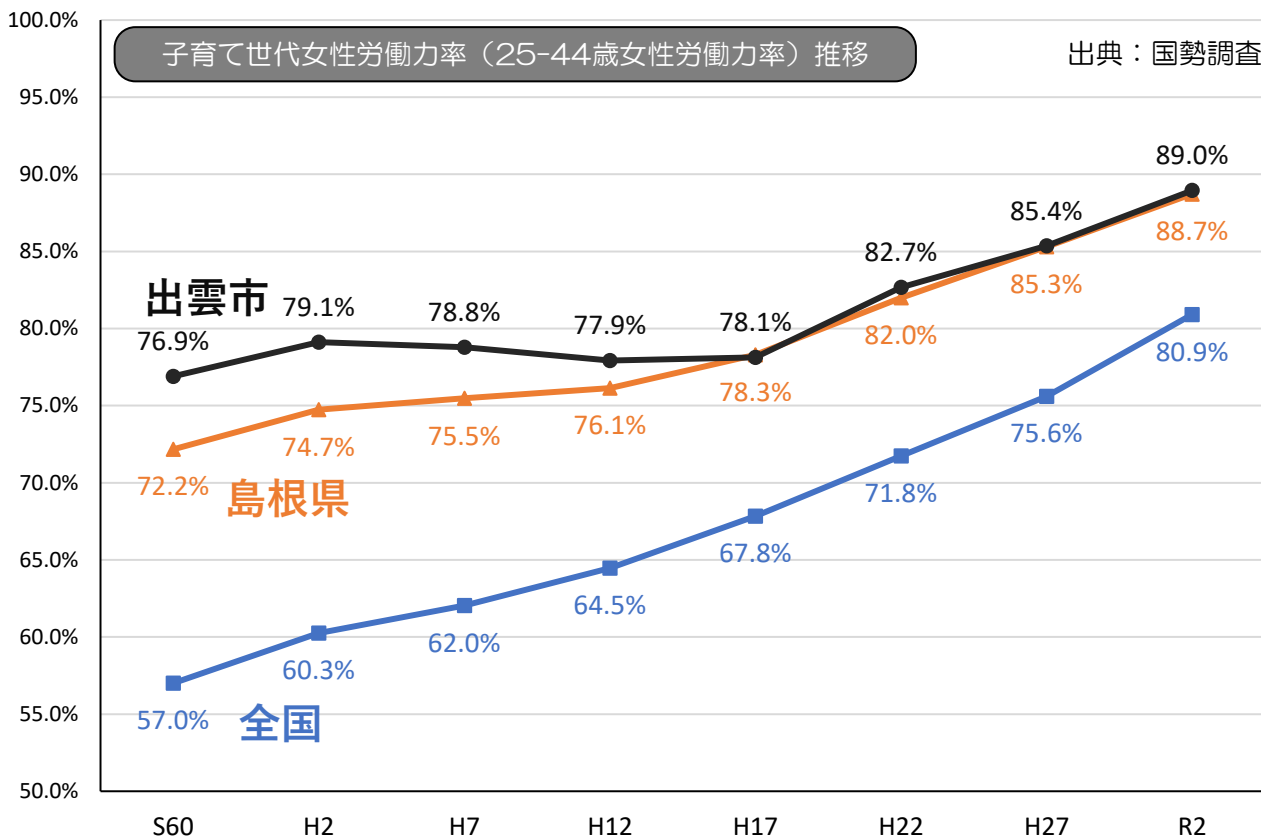
出生数、幼児施設人数・箇所数推移 (H12~R4)

出雲市



都道府県	幼稚園				幼保連携型認定こども園			
	計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立
全国	9,111 (11,252)	49 (49)	2,910 (4,127)	6,152 (7,076)	6,657 (2,822)	0 (0)	913 (452)	5,744 (2,370)
北海道	347 (459)	2 (2)	39 (60)	306 (397)	297 (117)	0 (0)	20 (13)	277 (104)
青森県	85 (100)	1 (1)	2 (4)	82 (95)	247 (158)	0 (0)	1 (3)	246 (155)
岩手県	70 (106)	1 (1)	29 (49)	40 (56)	121 (42)	0 (0)	13 (5)	108 (37)
宮城県	212 (254)	1 (1)	63 (81)	148 (172)	99 (17)	0 (0)	7 (5)	92 (12)
秋田県	32 (41)	1 (1)	1 (7)	30 (33)	85 (49)	0 (0)	11 (6)	74 (43)
山形県	59 (81)	1 (1)	9 (12)	49 (68)	77 (30)	0 (0)	4 (2)	73 (28)
福島県	218 (293)	1 (1)	118 (166)	99 (126)	106 (55)	0 (0)	30 (21)	76 (34)
茨城県	206 (283)	1 (1)	91 (151)	114 (131)	172 (109)	0 (0)	21 (11)	151 (98)
栃木県	74 (131)	1 (1)	1 (3)	72 (127)	123 (63)	0 (0)	3 (1)	120 (62)
群馬県	114 (175)	1 (1)	59 (76)	54 (98)	202 (72)	0 (0)	5 (2)	197 (70)
埼玉県	503 (574)	1 (1)	41 (52)	461 (521)	122 (45)	0 (0)	2 (0)	120 (45)
千葉県	459 (534)	1 (1)	74 (118)	384 (415)	127 (36)	0 (0)	34 (13)	93 (23)
東京都	969 (1,004)	2 (2)	161 (175)	806 (827)	45 (21)	0 (0)	9 (6)	36 (15)
神奈川県	616 (676)	0 (0)	36 (46)	580 (630)	159 (55)	0 (0)	12 (9)	147 (46)
新潟県	70 (101)	2 (2)	22 (33)	46 (66)	201 (59)	0 (0)	11 (7)	190 (52)
富山県	30 (66)	1 (1)	10 (27)	19 (38)	127 (58)	0 (0)	10 (2)	117 (56)
石川県	45 (61)	1 (1)	1 (2)	43 (58)	161 (66)	0 (0)	2 (1)	159 (65)
福井県	63 (88)	1 (1)	48 (61)	14 (26)	149 (72)	0 (0)	25 (14)	124 (58)
山梨県	55 (62)	1 (1)	2 (3)	52 (58)	59 (23)	0 (0)	0 (0)	59 (23)
長野県	91 (100)	1 (1)	7 (11)	83 (88)	47 (26)	0 (0)	7 (2)	40 (24)
岐阜県	149 (184)	0 (0)	58 (81)	91 (103)	79 (35)	0 (0)	28 (19)	51 (16)
静岡県	340 (430)	1 (1)	179 (226)	160 (203)	291 (134)	0 (0)	82 (69)	209 (65)
愛知県	399 (492)	1 (1)	53 (85)	345 (406)	235 (56)	0 (0)	26 (1)	209 (55)
三重県	157 (224)	1 (1)	112 (165)	44 (58)	68 (11)	0 (0)	16 (3)	52 (8)
滋賀県	125 (156)	1 (1)	105 (135)	19 (20)	116 (52)	0 (0)	38 (24)	78 (28)
京都府	194 (217)	1 (1)	46 (61)	147 (155)	138 (41)	0 (0)	20 (2)	118 (39)
大阪府	535 (679)	1 (1)	204 (308)	330 (370)	679 (331)	0 (0)	90 (32)	589 (299)
兵庫県	446 (578)	2 (2)	260 (366)	184 (210)	547 (264)	0 (0)	90 (52)	457 (212)
奈良県	143 (183)	2 (2)	102 (138)	39 (43)	94 (29)	0 (0)	44 (19)	50 (10)
和歌山県	65 (86)	0 (0)	37 (50)	28 (36)	51 (18)	0 (0)	6 (2)	45 (16)
鳥取県	19 (20)	1 (1)	3 (3)	15 (16)	41 (26)	0 (0)	17 (11)	24 (15)
島根県	80 (92)	1 (1)	69 (78)	10 (13)	22 (6)	0 (0)	2 (3)	20 (3)
岡山県	207 (284)	1 (1)	176 (252)	30 (31)	120 (36)	0 (0)	63 (27)	57 (9)
広島県	213 (266)	2 (2)	68 (88)	143 (176)	162 (61)	0 (0)	5 (3)	157 (58)
山口県	156 (182)	1 (1)	25 (44)	130 (137)	31 (15)	0 (0)	14 (8)	17 (7)
徳島県	94 (150)	1 (1)	84 (139)	9 (10)	60 (23)	0 (0)	18 (11)	42 (12)
香川県	108 (154)	1 (1)	74 (118)	33 (35)	84 (17)	0 (0)	41 (13)	43 (4)
愛媛県	117 (152)	1 (1)	45 (63)	71 (88)	57 (25)	0 (0)	15 (7)	42 (18)
高知県	36 (47)	1 (1)	12 (18)	23 (28)	18 (9)	0 (0)	9 (6)	9 (3)
福岡県	415 (460)	1 (1)	27 (48)	387 (411)	68 (24)	0 (0)	3 (6)	65 (18)
佐賀県	48 (68)	1 (1)	5 (11)	42 (56)	80 (39)	0 (0)	1 (0)	79 (39)
長崎県	101 (126)	1 (1)	21 (35)	79 (90)	110 (61)	0 (0)	6 (2)	104 (59)
熊本県	100 (114)	1 (1)	24 (31)	75 (82)	132 (61)	0 (0)	1 (0)	131 (61)
大分県	152 (188)	1 (1)	94 (123)	57 (64)	118 (67)	0 (0)	6 (4)	112 (63)
宮崎県	90 (104)	1 (1)	11 (15)	78 (88)	146 (91)	0 (0)	0 (0)	146 (91)
鹿児島県	138 (166)	1 (1)	67 (80)	70 (85)	243 (100)	0 (0)	2 (2)	241 (98)
沖縄県	166 (261)	0 (0)	135 (229)	31 (32)	141 (17)	0 (0)	43 (3)	98 (14)

都道府県	小学校 1学年 児童数	幼稚園 修了者数	割合		幼保連携型 認定こども園 修了者数	割合	
			R4	H28		R4	H28
全国	998,137	371,564	(37.2% ←	48.6%)	199,469	(20.0% ←	6.9%)
北海道	36,319	13,924	(38.3% ←	52.1%)	9,105	(25.1% ←	6.8%)
青森県	8,579	1,575	(18.4% ←	24.7%)	4,146	(48.3% ←	22.9%)
岩手県	8,565	1,678	(19.6% ←	32.6%)	3,014	(35.2% ←	13.1%)
宮城県	18,084	8,873	(49.1% ←	60.6%)	2,591	(14.3% ←	3.9%)
秋田県	5,920	751	(12.7% ←	18.1%)	2,426	(41.0% ←	23.7%)
山形県	7,732	1,987	(25.7% ←	37.3%)	1,972	(25.5% ←	8.8%)
福島県	13,902	6,340	(45.6% ←	56.9%)	3,113	(22.4% ←	10.2%)
茨城県	21,266	7,554	(35.5% ←	44.9%)	5,804	(27.3% ←	16.8%)
栃木県	14,961	3,644	(24.4% ←	46.8%)	5,657	(37.8% ←	14.5%)
群馬県	14,461	3,154	(21.8% ←	39.2%)	6,257	(43.3% ←	8.7%)
埼玉県	59,074	29,428	(49.8% ←	62.1%)	5,728	(9.7% ←	3.2%)
千葉県	49,661	24,452	(49.2% ←	61.4%)	4,443	(8.9% ←	2.0%)
東京都	105,788	49,088	(46.4% ←	56.9%)	1,882	(1.8% ←	1.3%)
神奈川県	72,984	35,541	(48.7% ←	61.1%)	6,301	(8.6% ←	3.1%)
新潟県	16,192	1,602	(9.9% ←	18.4%)	5,518	(34.1% ←	9.7%)
富山県	7,536	715	(9.5% ←	21.9%)	3,725	(49.4% ←	10.8%)
石川県	9,005	1,600	(17.8% ←	25.8%)	3,948	(43.8% ←	11.8%)
福井県	6,165	432	(7.0% ←	18.9%)	3,437	(55.8% ←	15.1%)
山梨県	6,249	1,296	(20.7% ←	26.0%)	1,588	(25.4% ←	9.1%)
長野県	16,011	2,916	(18.2% ←	20.8%)	1,322	(8.3% ←	3.6%)
岐阜県	15,795	6,528	(41.3% ←	45.3%)	1,989	(12.6% ←	2.5%)
静岡県	28,628	11,220	(39.2% ←	56.9%)	9,147	(32.0% ←	11.2%)
愛知県	65,348	23,642	(36.2% ←	45.4%)	9,083	(13.9% ←	2.4%)
三重県	14,083	4,529	(32.2% ←	43.4%)	2,034	(14.4% ←	1.4%)
滋賀県	12,785	3,755	(29.4% ←	45.1%)	4,233	(33.1% ←	13.5%)
京都府	19,212	7,554	(39.3% ←	44.8%)	3,784	(19.7% ←	2.5%)
大阪府	67,648	26,879	(39.7% ←	52.9%)	21,628	(32.0% ←	13.9%)
兵庫県	44,001	16,252	(36.9% ←	53.6%)	15,570	(35.4% ←	11.3%)
奈良県	10,137	4,011	(39.6% ←	51.0%)	2,783	(27.5% ←	6.7%)
和歌山県	6,870	1,584	(23.1% ←	32.4%)	1,837	(26.7% ←	7.3%)
鳥取県	4,511	760	(16.8% ←	17.1%)	1,147	(25.4% ←	18.7%)
島根県	5,398	1,031	(19.1% ←	23.9%)	481	(8.9% ←	1.8%)
岡山県	15,452	4,520	(29.3% ←	43.3%)	3,590	(23.2% ←	4.4%)
広島県	23,187	7,280	(31.4% ←	41.9%)	5,225	(22.5% ←	6.4%)
山口県	10,191	4,627	(45.4% ←	49.0%)	860	(8.4% ←	3.4%)
徳島県	5,472	2,352	(43.0% ←	58.1%)	1,439	(26.3% ←	5.9%)
香川県	7,632	2,963	(38.8% ←	56.0%)	2,132	(27.9% ←	4.0%)
愛媛県	10,110	3,467	(34.3% ←	46.0%)	2,240	(22.2% ←	8.4%)
高知県	4,989	867	(17.4% ←	21.7%)	417	(8.4% ←	4.5%)
福岡県	45,504	19,519	(42.9% ←	49.3%)	2,252	(4.9% ←	2.1%)
佐賀県	7,013	1,216	(17.3% ←	25.1%)	2,491	(35.5% ←	22.2%)
長崎県	10,883	2,750	(25.3% ←	33.9%)	2,919	(26.8% ←	12.1%)
熊本県	15,571	2,944	(18.9% ←	28.6%)	3,925	(25.2% ←	9.6%)
大分県	9,022	3,628	(40.2% ←	55.3%)	2,831	(31.4% ←	13.9%)
宮崎県	9,176	1,904	(20.7% ←	28.7%)	3,259	(35.5% ←	14.5%)
鹿児島県	14,073	3,179	(22.6% ←	33.6%)	5,637	(40.1% ←	15.5%)
沖縄県	16,992	6,053	(35.6% ←	72.8%)	4,559	(26.8% ←	1.0%)



核家族世帯：親と子ども（18歳未満）から成る世帯、夫婦のみの世帯

3世代世帯：世帯主との続柄が、祖父母、世帯主の父母（又は世帯主の配偶者の父母）、世帯主（又は世帯主の配偶者）、子（又は子の配偶者）及び孫の直系世代のうち、三つ以上の世代が同居していることが判定可能な世帯

市立幼稚園 園児数推計 R10(2028)、R15(2033)

A 就園率が下がらない場合

項目	実績		推計	
	H30(2018)	R5(2023)	R10(2028)	R15(2033)
3/31人口 (3-5歳)	4,498	4,312	4,120	4,060
5/1園児数	1,239	810	774	763
就園率	28%	19%	19%	19%

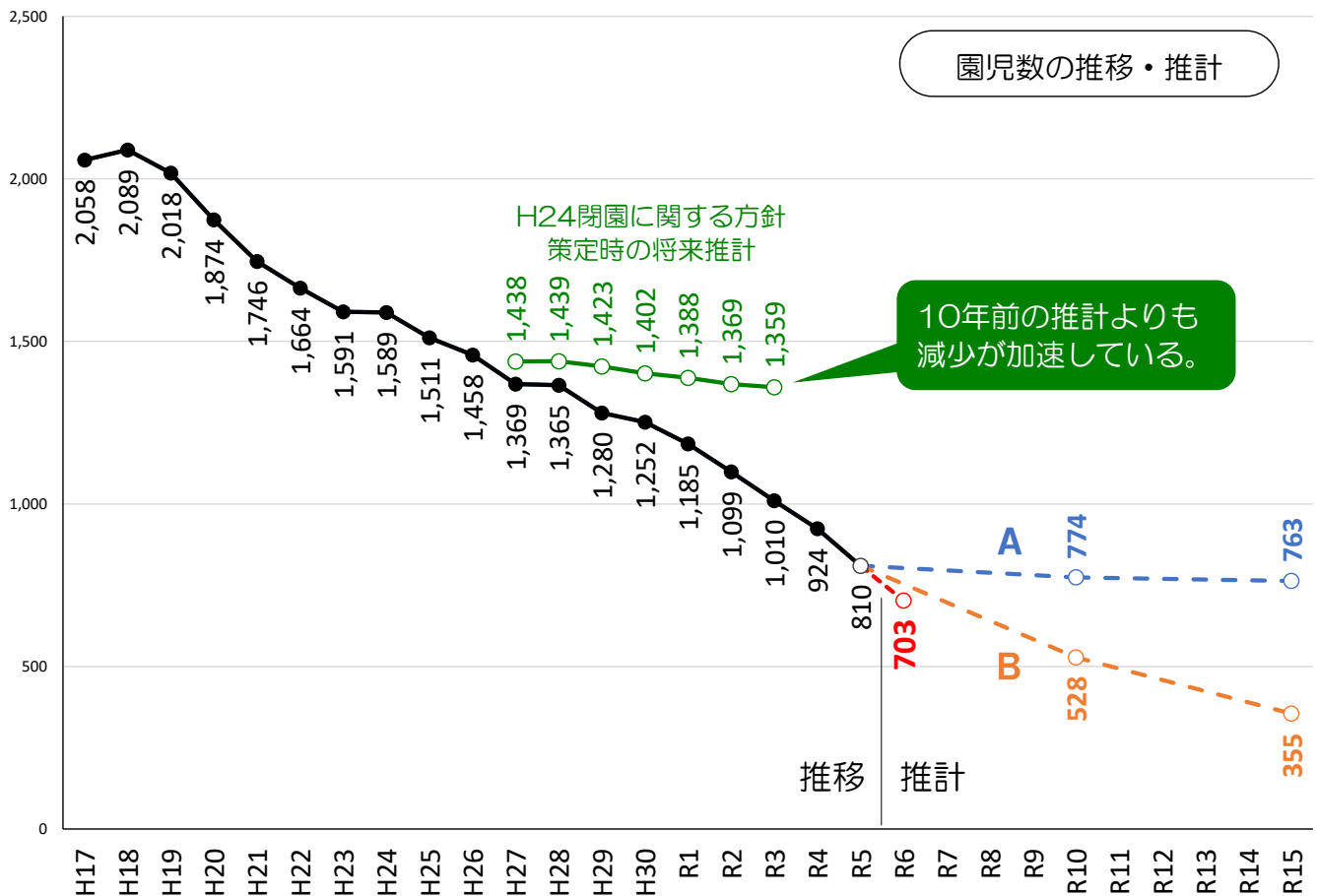
B 就園率が同率で低下し続けた場合

項目	実績		推計	
	H30(2018)	R5(2023)	R10(2028)	R15(2033)
3/31人口 (3-5歳)	4,498	4,312	4,120	4,060
5/1園児数	1,239	810	528	355
就園率	28%	19%	13%	9%

【推計方法】

3/31人口 (3-5歳) : コーホート法による人口推計 (2018-2023の0-9歳増減率を継続採用) (佐田・多伎地域除く)

- ※1 実際はA(就園率が下がらない)とB(就園率が低下し続けた)の間で推移すると思われる。
- ※2 R5(2023)園児数810人の内訳は、5歳児:332人、4歳児:253人、3歳児:225人であり、R6(2024)見込は、**年長が卒園して年少児と同数が入園すると見込むと、「703人」となる。(新入年少児は減少傾向)**



幼稚園・保育所・認定こども園に関するアンケートの実施結果について

1. 目的

市立幼稚園のあり方検討における検討材料とするため、市内幼稚園・保育所・認定こども園の保護者等に対し、意識調査（アンケート）を行った。

2. 対象

- ・ 出雲市内の幼稚園や保育所、認定こども園を利用するお子さんがおられる方
- ・ 上記以外で出雲市在住の方

3. 実施時期

令和5年8月18日（金）～9月5日（火）

4. 調査の項目

- ① 回答者の属性（年齢・居住中学校区、子どもの所属など）
 - ② 幼稚園や保育所、認定こども園を選ぶ際に重視する点
 - ③ 幼稚園や保育所、認定こども園に期待する役割で重要だと思うこと
 - ④ 認定こども園の認知度
- （その他）幼稚園や保育所、認定こども園についての自由意見

5. 調査方法など

	オンラインによる回答	アンケート用紙による回答
回答方法	スマホやパソコンから URL もしくは QR コードを読み取り、アンケート回答フォーム上で回答	幼稚園や保育所などに配置するアンケート用紙に回答を記入のうえ、回収
周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園や保育所などから保護者に URL を配信し、スマホからの回答を依頼 ・ 出雲市ホームページ、フェイスブックによって情報発信し回答を依頼 	

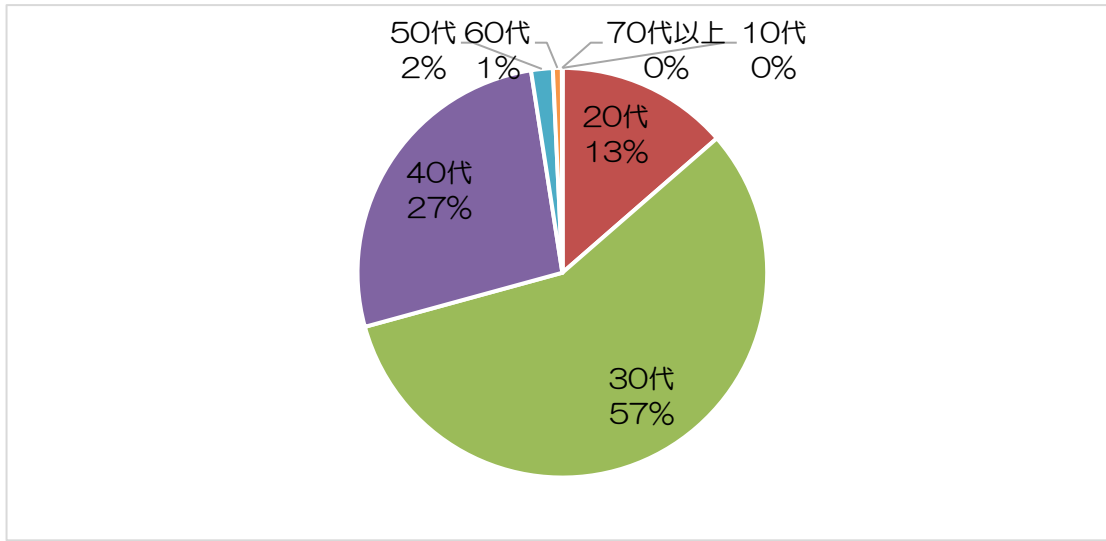
6. 回答数

総数	回答方法別の内訳	紙回答のうち外国語
2,690	オンライン 2,654	
	アンケート用紙 36	ポルトガル語 21
		英語 3

2. アンケート集計結果

問1 あなたの年齢を教えてください。

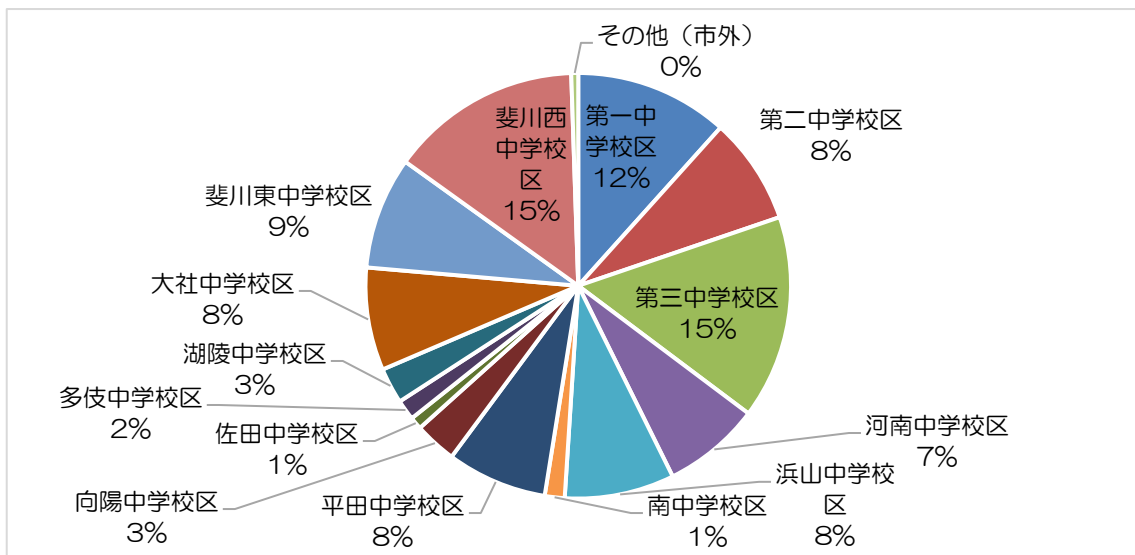
アンケート回答者の年齢については、30代が全体の57%と最も多く、次いで40代が27%、20代が13%となっています。



年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
回答者数	1	365	1,537	721	46	19	1	2,690

問2 どちらの中学校区にお住まいですか。

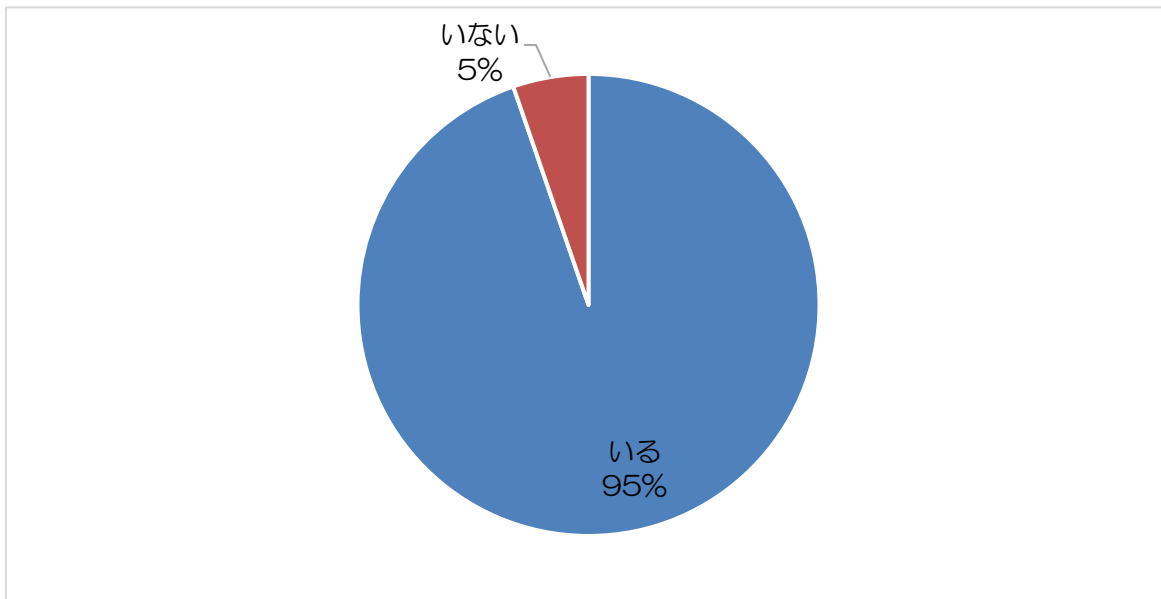
アンケート回答者の居住中学校区については、下記のとおりです。



中学校区	第一中学校区	第二中学校区	第三中学校区	河南中学校区	浜山中学校区	南中学校区	平田中学校区	向陽中学校区	佐田中学校区	多伎中学校区	湖陵中学校区	大社中学校区	斐川東中学校区	斐川西中学校区	その他(市外)	計	無回答
回答者数	309	215	410	197	221	40	202	85	25	41	72	207	226	386	14	2,650	40

問3 幼稚園や保育所、認定こども園などを利用している就学前のお子さんがおられますか。(お子さんが複数人おられる場合は、現在、一番下のお子さんが利用している施設などを選んでください。)

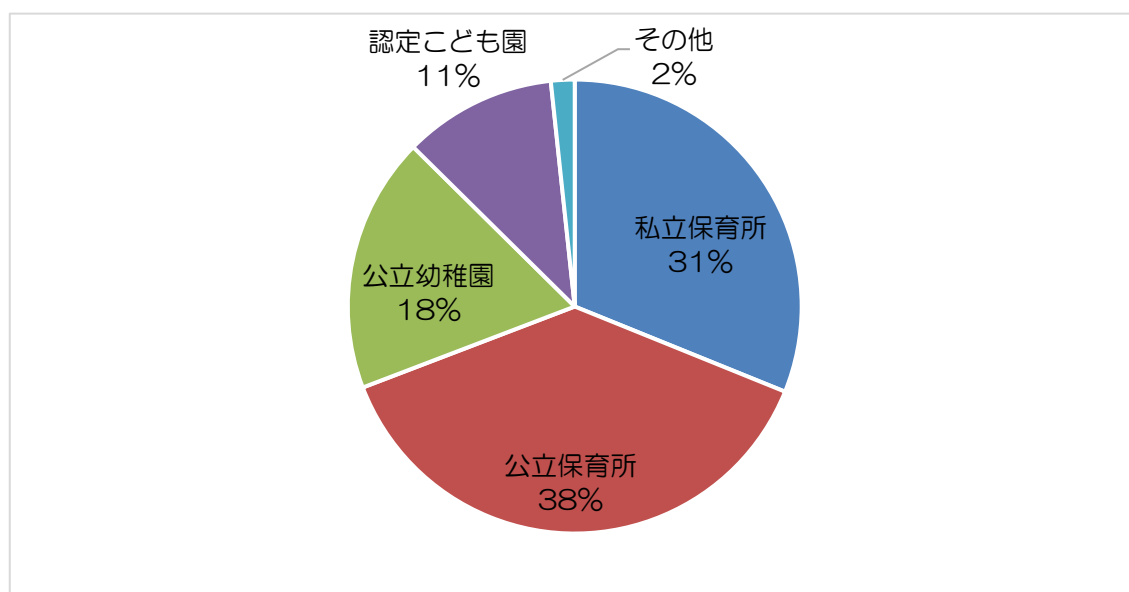
アンケート回答者のうち、就学前施設を利用しているお子さんがおられる方は95%、おられない方は5%でした。



区分	いる	いない	計
回答者数	2,548	142	2,690

問4 問3で就学前のお子さんが「いる」を選択された場合、お子さんが利用している施設はどちらですか。

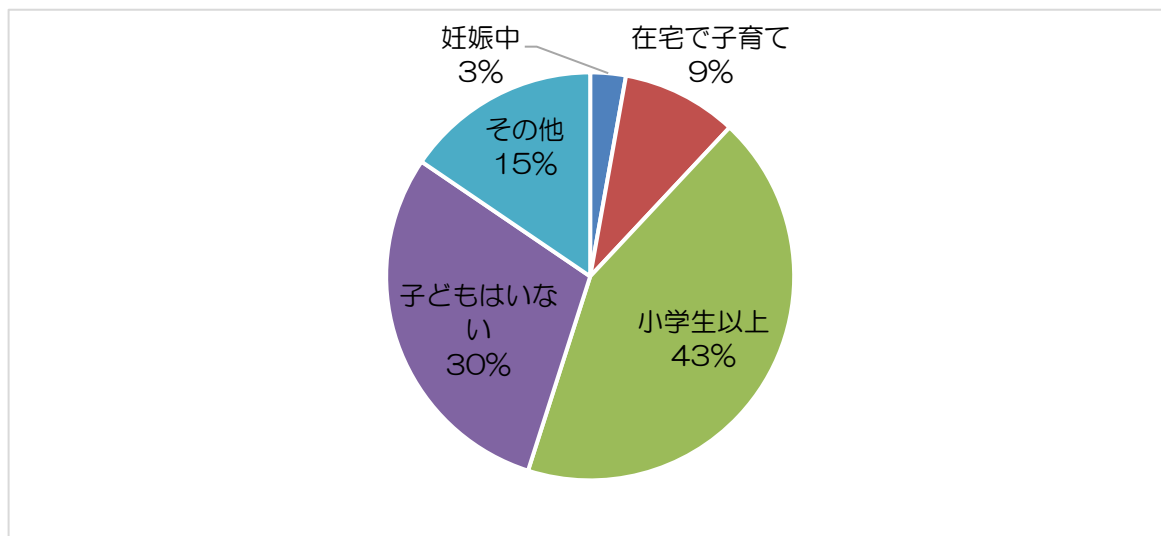
就学前の一番下のお子さんが利用している施設については、「公立保育所」が38%と最も多く、次いで、「私立保育所(園)」が31%、「公立幼稚園」は18%でした。



区分	私立保育所	公立保育所	公立幼稚園	認定こども園	その他	計
回答者数	793	970	464	278	43	2,548

問5 問3で就学前のお子さんが「いない」を選択された場合、お子さんの状況を下のリストから選んでください。

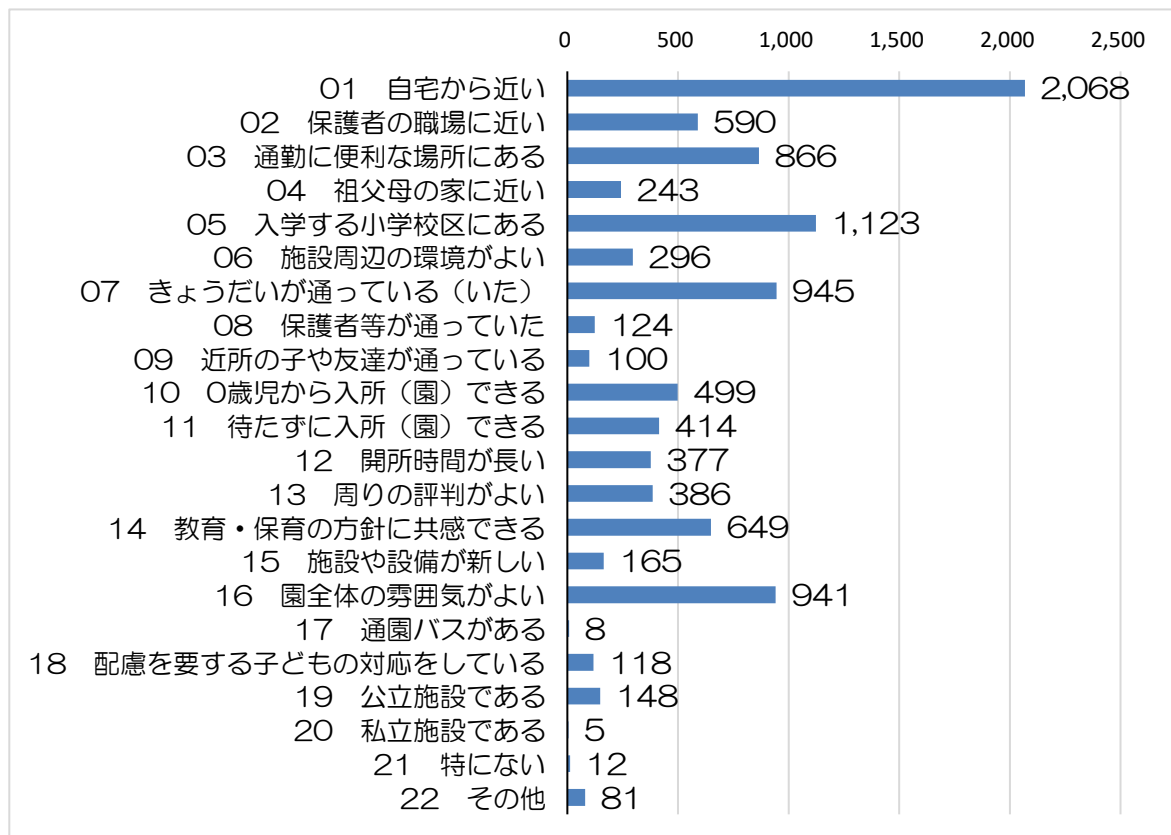
就学前のお子さんがおられない方の内訳は、「小学生以上」が43%と最も多く、次いで、「子どもはいない」が30%でした。



	妊娠中	在宅で子育て	小学生以上	子どもはいない	その他	計
回答数	4	13	61	42	22	142

問6 幼稚園や保育所、認定こども園などを選ぶときに重視する(した)点は何ですか。下からあてはまるものを最大5つまで選んでください。(現在、これらの施設を利用しているお子さんもおられない方も、大切だと思うものを選んでください。)

幼稚園や保育所などを選ぶ場合に重視する点について、「自宅から近い」が最も多く、次いで「入学する小学校区にある」、「きょうだいがいる(いた)」でした。

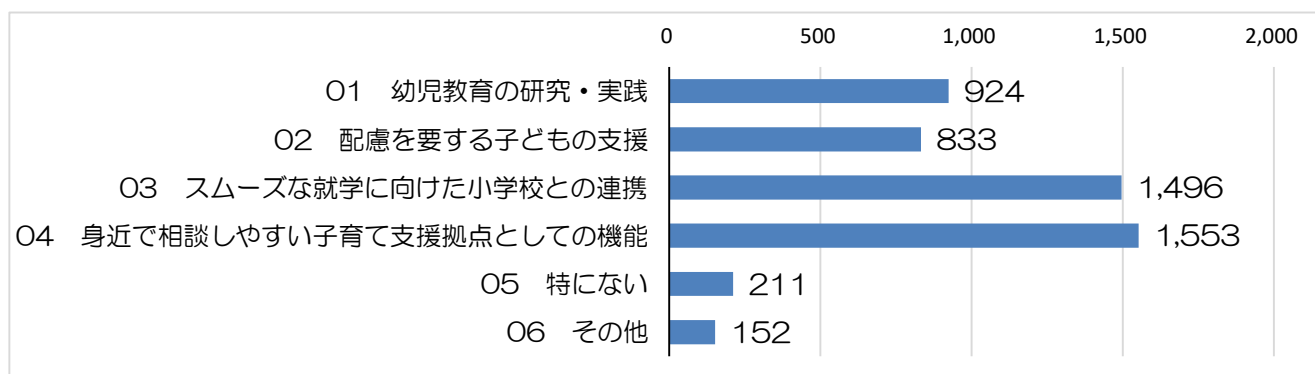


【評価】

施設を選ぶ際には、仕事と育児が両立できる環境として、自宅や職場に近いことや通勤の利便性が求められるとともに、小学校との連携を意識し小学校区内の施設を選ぶ傾向が強いです。

問7 出雲市が運営している公立の幼児教育・保育施設(市立幼稚園又は市立保育所)に期待することはなんですか。下からあてはまるものを選んでください。(複数回答可) また、よろしければ選んだ理由もご記入ください。現在、公立の幼稚園・保育所に在籍している・いないに関わらずお答えください。

今後、公立幼稚園や公立保育所に期待することとして重要だと思うことについては、「身近で相談しやすい子育て支援拠点としての機能」が最も多く、次いで、「スムーズな就学に向けた小学校との連携」、「幼児教育の研究・実践」でした。



【各回答を選んだ理由の主なもの】

01 幼児教育の研究・実践

公立園として、出雲市の幼児教育を牽引することを期待
都会の園に比べて時代に合った保育、教育がもっと必要
公立の幼稚園は古いし汚いし先生の数も少ない
公立幼稚園しか選べないというのは選択肢が少なすぎる
自分で考えて動く事や周りとの協調性を学ぶためには絶対幼稚園教育はあるべき

田舎に住んでるからと選択肢や可能性が一気に減るのは、子供たちが可哀想
保育所も英語や運動を専門の先生から学ぶ機会を作ってほしい
公立の保育施設からはその園ならではの特色や保育観が感じられない
親の教育方針に合わせて私立の幼稚園含めて選べれば良いが、私立幼稚園は少なく、公立から選ぶしかない現状
都会と同じレベルの教育が受けられる施設を期待

02 配慮を要する子どもの支援

配慮を要する子どもが、親の状況に関係なく、必要な支援を受けられるようになって欲しい
配慮を要する親子が安心してどこでも入れるのと同時に、小さい時に子供達を同じ環境に置くことで、それが当たり前になることが理想
専門の知識がある人が居ると安心
私立では難しい部分を公立で対応してあげることが大事

配慮を要する子どもたちが増えてきているから
公立ですので社会的弱者に寄り添う対応を願いたい
私立の保育園では受け入れにくいような子への対応をしてほしい
受け入れ体制が整っている施設が公立にあれば社会生活を送るうえで安心
医療的ケア児などの特別な配慮を要する子の受け入れなど、公立だからできることに特化してほしい

03 スムーズな就学に向けた小学校との連携

幼稚園でも少しは就学に向けての学習を取り入れて欲しい
公立なので小学校との連携があるといい
保育園と幼稚園で就学につながる活動(書く活動や外国語活動など)に差が大きく生じないでほしい
小1ギャップで困らないようにしてやりたい

公立幼稚園では、生活の中で子どもの自立を促していて、スムーズな就学につながっている
島根県の学力水準を考慮すると、幼児から小学校にかけての学力向上が必須
少人数の幼稚園に通っている子がいるので大所帯となる小学校の雰囲気馴染めるか不安

04 身近で相談しやすい子育て支援拠点としての機能

県外から結婚を機会に島根にきて、周りに子育てしている同世代があまりいない
市の福祉関係の施設や部署と連携が取れやすそう
幼稚園は人数が少ない分、アットホームで先生、子供たち、保護者同士の距離が近いのが良い
相談しやすい環境があれば保護者の方も安心

保育園の先生や親の繋がりが一番相談しやすい
専門家の方に相談できるのは心強い
核家族の家庭が増え、保護者が一人で悩みを抱えていることが増えている
子育てについての相談場所が少ない
近くに知人が少ないため、公的機関として子育て支援をしてほしい
子育てに悩む保護者が頼れる場所があるといい

05 特にない 06 その他

公立のメリットがよくわからない
公立でも私立でも子どもが安全安心に預けられれば良い
保育所で幼稚園のような幼児教育があれば選択肢になる
共働き、フルタイムで働いている家庭では幼稚園に通わせる選択肢はない

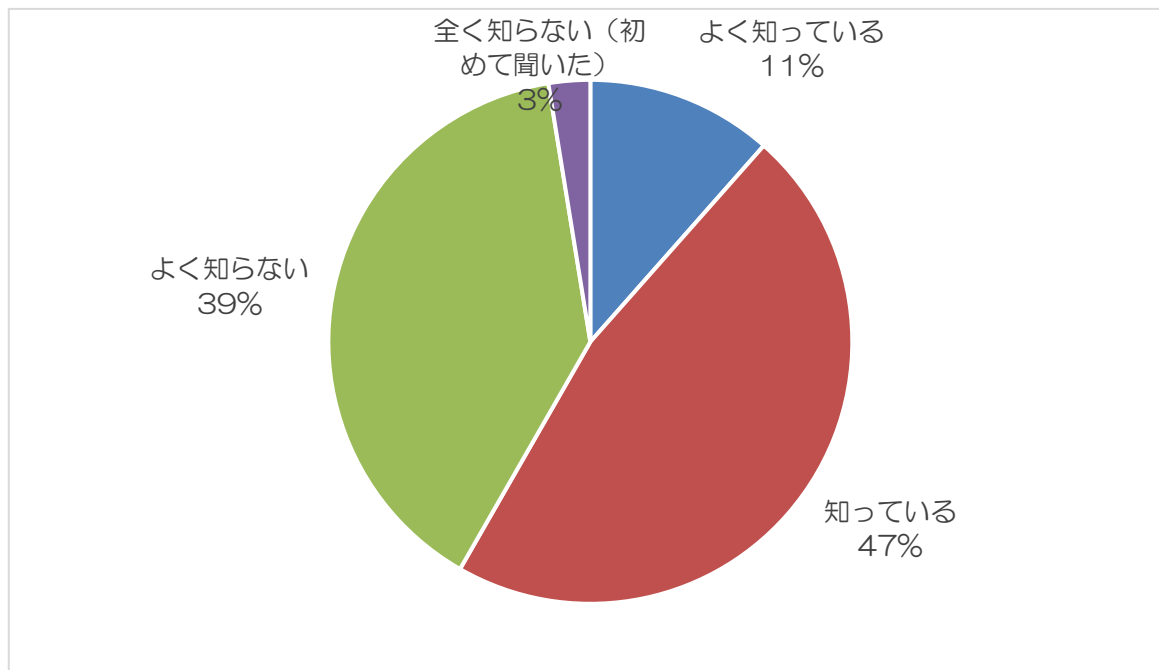
幼稚園は、保育時間が短すぎて、共働きには活用の余地が全くない
公立のこども園を運営して欲しい。上の子どもは幼稚園に預け、下の子どもは保育園に通うことは大変
公立幼稚園は園舎や遊具が古く設備の点で不満。保育園に比べて体験(体操教室、音楽、水泳等)できるものが少ない。英語教育など幼稚園ならではの教育などあると思います。
私立保育園にはない魅力があまり見受けられない

【評価】

公立施設の役割として、子育て支援拠点や小学校との連携機能を求める意見が多いです。また、私立施設で対応が難しい場合に配慮を要する子どもへの支援や、出雲市の幼児教育をけん引することへの期待の声があります。

問8 出雲市では、就学前の幼児施設として幼稚園・保育所のほか、「認定こども園」が運営されています。あなたは『認定こども園』をご存じですか。

認定こども園を「よく知っている」「知っている」方はあわせて58%、「よく知らない」「全く知らない」方はあわせて42%でした。



	よく知っている	知っている	よく知らない	全く知らない(初めて聞いた)
回答者数	310	1,258	1,053	69

【評価】

出雲市内の認定こども園は4か所ですが、回答者の半数以上にはある程度認知されているものの、約4割の方にはあまり認知されていない状況にあります。

問9 公立・私立に関わらず市内の幼稚園や保育所、認定こども園などについて、ご意見があればご記入ください。

主な意見要旨	意見数
施設数・配置に関する意見	約70件
民営化に対する意見	約10件
保育士などに対する感謝・満足	約40件
保育士に関する意見・要望	約90件
入園・入所関係に関する意見・要望	約160件
配慮を要する子どもに関する意見	約10件
公立施設の役割	約80件
保育士の処遇改善	約40件

意見総数
約530件

◎回答者の属性（子どもの利用施設など）別に見た「幼稚園や保育所（園）などを選ぶ際に重視する点」の回答数

上段：回答者数
下段：回答割合

	自宅から近い	保護者の職場に近い	通勤に便利な場所にある	祖父母の家に近い	入学する小学校区にある	施設周辺の環境がよい	きょうだいが通っている(いた)	保護者等が通っていた	近所の子や友達に通っている	0歳児から入所(園)できる	待たずに入所(園)できる	開所時間が長い	周りの評判がよい	教育・保育の方針に共感できる	施設や設備が新しい	園全体の雰囲気が良い	通園バスがある	配慮を要する子どもに対応している	公立施設である	私立施設である	特にない	その他	該当者数
私立保育所	605 76%	195 25%	319 40%	80 10%	294 37%	78 10%	282 36%	23 3%	15 2%	191 24%	108 14%	134 17%	126 16%	220 28%	58 7%	304 38%	0 0%	22 3%	0 0%	4 1%	1 0%	32 4%	793
公立保育所	768 79%	253 26%	360 37%	95 10%	353 36%	78 8%	379 39%	39 4%	24 2%	224 23%	149 15%	127 13%	126 13%	185 19%	48 5%	297 31%	0 0%	27 3%	70 7%	0 0%	3 0%	19 2%	970
公立幼稚園	362 78%	48 10%	46 10%	30 6%	306 66%	74 16%	131 28%	30 6%	22 5%	8 2%	82 18%	59 13%	53 11%	109 23%	23 5%	163 35%	5 1%	40 9%	59 13%	0 0%	0 0%	19 4%	464
認定こども園	207 74%	57 21%	80 29%	25 9%	89 32%	22 8%	99 36%	22 8%	17 6%	53 19%	50 18%	36 13%	43 15%	70 25%	27 10%	96 35%	3 1%	15 5%	0 0%	0 0%	0 0%	10 4%	278
妊娠中	2 50%	2 50%	3 75%	1 25%	0 0%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	0 0%	4 100%	0 0%	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4
在宅で子育て	9 69%	2 15%	2 15%	0 0%	5 38%	2 15%	3 23%	0 0%	1 8%	1 8%	2 15%	2 15%	0 0%	3 23%	0 0%	5 38%	0 0%	1 8%	3 23%	0 0%	0 0%	1 8%	13
小学生以上	40 66%	9 15%	24 39%	9 15%	36 59%	11 18%	22 36%	4 7%	7 11%	9 15%	10 16%	10 16%	8 13%	25 41%	2 3%	19 31%	0 0%	5 8%	9 15%	0 0%	0 0%	2 3%	61
子どもはいない	23 55%	10 24%	15 36%	0 0%	15 36%	18 43%	7 17%	1 2%	6 14%	0 0%	4 10%	3 7%	17 40%	23 55%	4 10%	29 69%	0 0%	5 12%	4 10%	0 0%	0 0%	0 0%	42
その他	52 80%	14 22%	17 26%	3 5%	25 38%	12 18%	23 35%	5 8%	8 12%	12 18%	9 14%	6 9%	13 20%	12 18%	3 5%	24 37%	0 0%	1 2%	3 5%	1 2%	0 0%	6 9%	65

【評価】

施設利用の選択にあたっては、現在の施設の利用状況に関わらず、「自宅から近い」ことが最も重視されています。

また、保育施設利用者からは「通勤に便利な場所にある」「きょうだいが通っている」ことなど、通勤の利便性やきょうだいと同じ施設に通うことを強く望んでいる傾向が見えます。

一方、幼稚園利用者からは「入学する小学校区にある」ことなど地域性を考慮した選択の傾向が見えます。

◎回答者の属性（子どもの利用施設など）別にみた「公立施設に期待することで重要だと思うこと」の回答数

上段：回答者数
下段：回答割合

	幼児教育の研究・実践	配慮を要する子どもの支援	スムーズな就学に向けた小学校との連携	身近で相談しやすい子育て支援拠点としての機能	特にない	その他	回答者数
私立保育所	248 31%	257 32%	398 50%	447 56%	90 11%	55 7%	793
公立保育所	296 31%	260 27%	503 52%	586 60%	72 7%	49 5%	970
公立幼稚園	204 44%	159 34%	319 69%	258 56%	24 5%	27 6%	464
認定こども園	97 35%	79 28%	155 56%	147 53%	20 7%	14 5%	278
妊娠中	1 25%	1 25%	2 50%	3 75%	0 0%	0 0%	4
在宅で子育て	3 23%	7 54%	7 54%	6 46%	0 0%	1 8%	13
小学生以上	33 54%	38 62%	45 74%	35 57%	2 3%	4 7%	61
子どもはいない	21 50%	18 43%	29 69%	31 74%	0 0%	1 2%	42
その他	21 32%	14 22%	38 58%	41 63%	2 3%	1 2%	65

【評価】

公立施設に対しては、現在の施設の利用状況に関わらず、「スムーズな就学に向けた小学校との連携」「身近で相談しやすい子育て支援拠点としての機能」を期待する割合が高いです。

特に公立幼稚園では「スムーズな就学に向けた小学校との連携」への期待がより強くなっています。

問9 自由意見 主な意見

1. 公立存続	
公立を残してほしい	子供の施設がない地区は将来性もなくなる
園児減といって合併を安易に考えてほしくない	保護者、地域にとって必要な幼稚園
中学校区で合併し公立幼稚園を残していくことが必要	幼稚園を、中学校区に1つくらいに減らしても良い
【評価】地域の状況を踏まえた幼稚園のあり方を考える必要があります。	
2. 就学準備への評価・要望	
幼稚園での指導で小学校へしっかり繋がった	入学に向けて読み書きや英語など、準備をしてほしい
幼稚園は小学校の集団生活の準備が行き届いている	小学校に向けて英会話やダンスを取り入れてほしい
幼稚園は小学校が近く就学がスムーズ	英語やタブレットなど幼児教育にも取り入れてほしい
幼稚園は就学へ向けて強みを生かすことが大切	就学前の学習を行なってほしい
家の近くに施設があると就学がスムーズ	就学に向けた幼児教育を実践してほしい
校区内にある保育所の空きが出来たら転園させたい	就学前から保育園交流や学校見学をしてほしい
通勤のため小学校区が異なる保育所を選び不安	
【評価】幼稚園に対する、就学へ向けた幼児教育への期待の声と、居住する校区内の施設を選択したい声があります。	
3. 特別支援等	
障がいの有無を問わずどの子ども安心して過ごせるように	外国にルーツを持つ子、障がいがある子への人員配置を
私立は支援児に追加がつかない。公立で受け入れを	先生方が特別支援に深い理解をしてくださっている
障害のある子をなかなか受け入れてもらえない	配慮の必要なお子さんたちは幼稚園のニーズがある
支援が必要な子どもが入りにくい	
【評価】配慮が必要な子どもが、適切なケアの元、集団のなかで保育が受けられることへの期待の声が多いです。	
4. 幼稚園に行かせたいが困難	
幼稚園の良さはわかるが3歳から転園は困難	就労、核家族化の中、幼稚園の預かりで働くことは困難
幼稚園は3歳から入園で諦めた	共働きフルタイムでないと家計が成り立たない
幼稚園に通わせたいが勤務時間変更難しい為断念	共働きは0歳から幼稚園に預けたくてもできない
幼稚園に通わせたいが働いていると諦めざるを得ない	共働きのため長期休みがない保育園に預ける
幼稚園の重要性はわかっているが乳児から保育園に預ける	夏休みがあり、給食がないため保育園を選択
働いてなかったら幼稚園に行かせたい	人数や同級生がいるかを重要視する
低年齢から入所したり、幼稚園は現実的に無理	
【評価】就労状況、家族状況などから幼稚園に行かせた気持ちがあっても困難な状況が見受けられます。	
5. 認定こども園を期待	
公立の幼稚園を全て認定こども園にしてほしい	こども園への移行等、集約化も必要
他自治体のように公立のこども園として体制を変えて	近隣の園同士を統合し、こども園化していくのがよい
人数がいてこそ適切な教育。公立の認定こども園を。	幼稚園に固執せず認定こども園へ移行を
私立のこども園が自宅近くにほしい	幼稚園もいいが途中転園困難、認定こども園がほしい
幼稚園を認定こども園として民間譲渡した方がよい	幼稚園は友達が少なく行事も困難。ぜひ早くこども園に
こども園ができれば幼保の良さを兼ね備えた施設になる	こども園に移行すれば需要は多くある
幼児教育と預けやすい環境が両方整った施設がほしい	認定こども園に入れたかったが、近所に無かった
幼稚園をなくして各校区にこども園があれば良い	保育園は満員、認定こども園が近くにあるとよい
【評価】幼稚園・保育所の機能を兼ね備えた認定こども園の増加を期待する声があります。	
6. 休業中の給食	
保育園に流れる理由は長期休みの弁当	幼稚園が長期休暇中に給食があれば預けたい
幼稚園をためらう理由が夏休みの弁当	幼稚園は長期休みの弁当作りが負担だった
幼稚園も夏休みに給食があると嬉しい	長期休みの給食があると共働きにとってはありがたい
幼稚園は長期休みの時に給食がないから保育園がいい	長期休暇中に弁当を持たせるの大変
【評価】幼稚園における長期休業中の対応に幼稚園をためらう声があります。	
7. 習い事を期待	
県外から転園、学習の時間がなく落胆	外国語教育があると良い
私立幼稚園のように公立も習い事をしてほしい	幼稚園で、体操、英語、ピアノなど習い事をしてほしい
【評価】より特色のある幼児教育を期待する声があります。	

8. 存続否定的	
統合は必要 幼稚園は統合して欲しい 幼稚園の良さを特に感じない 幼稚園は習い事がなく通わせるメリットがない 前に住んでいた町には公立幼稚園はなかった 周辺地域の幼稚園の需要の減少は仕方ない 保育園はパンパンなのに幼稚園はガラガラ 保育所はいっぱいなのに幼稚園の存在が理解できない	保育園に入れず仕方なく幼稚園に入れた 幼稚園が余っているなら、幼稚園を保育園にしてほしい 保護者が働いていると保育園に流れるのは仕方ない 現在のニーズは保育園にある 共働きでは、幼稚園の選択肢はありえない フルタイム共働きで幼稚園は利用できない 両親共働き祖父母も仕事の家庭が多い 公立は施設が古い
【評価】現在の保育所・幼稚園の入所状況から、園児数が減少している幼稚園のあり方を速やかに示す必要があると考えます。	
9. その他	
定員、保育料等	
保育料を無料や安くする取り組みを希望 兄弟が別々の保育所にならないような対策を 保育料を年齢問わず無償化してほしい 保育士待遇改善意見、感謝	保育料が高く妊活を躊躇 保育園の空きがなく遠い保育園に通っている
保育士配置基準を改善すべき 職員増員をし保育環境を整えるのがこどものため 先生方には働きやすい環境で仕事をしていただきたい PTA・保護者会	良い先生方ばかりで安心 先生方には感謝しかありません 親身になって子どもと向き合っていていただき感謝
保護者会をなくしたい 保護者会は保護者が消極的で必要性がない 子供見る人がいないから預けるのにPTAはいらない	保護者会の役員選出が負担 PTA会長を毎年決めるのが負担。PTAはなくてよい PTA廃止を希望
【評価】保育制度全般に関する意見が多く、幼稚園とともに幼児教育・保育施設のあり方を考える必要があります。	

キーワード登場回数

幼稚園	498	待機児童	23	先生	169	負担	71	学校	62
公立	76	就労	21	保育士	80	支援	34	小学校	55
幼児教育	25	保育料	25	職員	32	不安	33	就学	22
こども園	69			保護者	109	配慮	19	友達	14
教育	96			親	108	安全	12		
集団	11			共働き	62	安全	12		
学習	7			核家族	14	相談	12		
夏休み	36			PTA	12	発達	8		
休み	79			保護者会	7	心配	6		
弁当	40					病児	5		
行政	8					障がい	3		
保育園	390					外国	3		
保育所	103								

令和5年度 オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン（11月）
出雲市要保護児童対策地域協議会の取組について（旧：児童虐待防止推進月間）

1 「イオンモール出雲」で児童虐待防止に関するパネル展示を行います。

期 間 令和5年11月1日（水）～11月30日（木） （1か月間）
場 所 イオンモール出雲（3階セリア前）にて

※多くの方にご覧いただくことで、児童虐待防止の意識浸透を図ります。

2 「イオンモール出雲」で児童虐待防止に関する街頭啓発活動を行います。

日 時 令和5年11月3日（金・祝） 午前中
場 所 イオンモール出雲にて

※要保護児童対策地域協議会委員等により啓発チラシ等を配布します。

3 広報「いずも」11月号に児童虐待防止に関する特集記事を掲載します。

発刊日 令和5年10月20日（金）
記 事 「子どもの権利」ほか

※広報誌を通じて広く市民に情報発信を行います。

4 児童虐待防止推進PRの懸垂幕を設置します。

場 所 出雲市役所本庁舎敷地
期 間 11月1日（水）～11月12日（日）

※期間中、目立つ懸垂幕を掲げることで市民にアピールします。

5 オレンジ・ライトアップ in 日御碕灯台を開催します。(新規)

場 所 日御碕灯台

期 間 11月19日(日)～11月30日(木)

※児童虐待防止の普及啓発を促進するため、日御碕灯台を子どもたちの明るい未来を示すイメージカラーであるオレンジ色にライトアップします。

6 児童虐待防止と対応講座を開催します。

【日時及び内容等】

■第1回：12月16日(土) 13:30～16:00

『虐待の淵を生き抜いて～人にも自分にもあたらない社会をめざして～』

講師：島田 妙子氏(一般財団法人児童虐待防止機構オレンジ CAPO 理事長)

■第2回：1月21日(日) 10:00～12:00

『ヤングケアラーの現状と課題』

講師：斎藤 真緒氏

(立命館大学産業社会学部/京都市ユースサービス協会

「子ども・若者ケアラーをテーマにした事例検討会」プロジェクトリーダー)

【場所】島根県立大学出雲キャンパス

※詳しくは、広報「いずも」11月号等をご覧ください。

※島根県立大学出雲キャンパスとの連携により開催します。

問い合わせ先

出雲市要保護児童対策地域協議会事務局

出雲市 子ども未来部 子ども政策課

子ども家庭相談室(担当：今若・石橋・江角)

電話：21-6604 FAX：21-6413